奇方録　天

K-247

富士川文庫
490.9
Ki-1

共三

F
キ−16

一痔　荒玄ニ相傳之

一蓮肉ノ如クニ出生タルヲ山蛛（クモ）ノ絲ト一ユミノ皮ヲ細クシテ合テ巻切之　蛛絲ハカリテハ痛之内薬ニハ冷薬ヲ用之冬ノ用ニハ蛛絲ヲ物ニ巻テヲケハヨカルヘシ　蛛ヲモ置トモ　以上

（腫ニ）鼡ノ吹キ出薬　（諸腫ホニ口含メ吹キラセ面ニ付之）

一コタ子ノ爭ニツイタル者三粒ハカリ呑ハ則吹切之　以上

○ミハブキノ葉タニ胸ニセグリ治之　（孕者ニ天南星嫌之ト云々）

一天南星　一丁子　（各一匁）　一硫黄　（二匁）　已上抹合メ以續飯

○ホトニ丸メ九〻粒日ニ三度以マルナカラ以湯呑之　以上

ムシクイ歯ノ灸不　歯イタムトキ可灸之

イタム。歯ノ方ノ手ノ内ノ筋ヨリ指サキノ本ヲ立ナカラ。（ウラ）ヲ以ニ
言テ其ワラヲ二ニヨリテタケタカ指ニカケテ両ノ端ヲ引ツ
ロヱテ腕ノコウヲワラノ上（留之）リヲ三火而灸之 以上

一 俗ハ刀僧ハ扇子等何ナリトモ腰ニサシテ手ヲカケテ唱此哥云
東（ヒカシ）ナル梢ノスム淵（フチ）ノ瀬ノ淵デ鬼ノカイシハ本（モト）ノ系ナリト
密唱メ刀扇ヲヒンヌイテサテ擬（ヌク）タトミヘハ即ヌケルヤ縦教黒ヲ
陽テモ吉之 以上 何者ニ依ヲ可伝

○血トメ呪ノ事 手首ノ脈トコロヲ呪人我カオヲ、サヱテ此哥
ヲ三返密唱之 其人ニテモ他人ナリトモ疑則トヽテヌ也
チリヽトチリメリ神モ血ノ神モ世声キイテシカトトヽマレ 以口訣有之

○円陽河別トニリカ子ルタノニレテ呪ハトニルヤ
チリヽトサヱヅル浦ノウラ千鳥吾カ立ヨラバトニレサ浦ト三返
密唱スル也 又傳ニ此哥ヲ三唱メ吾カ毒ノ氣ヲ毒手デ取ヲ
掬スルガ如ク取ヲシテヲサヱテ薬師ノ呪七二返唱ル時トマリ
タルヘシト言也 甲冑ヲ著テモ鎧ノ上ヲ氣ノトヲリヲ、サ
ヱヘシ 以上 鹿嶋根本ゟ傳く嘉妙之

一 華表ノ上ニヲヱタル山トモ木也トモ揚匙ニケウリテ其す
キニ柔（ミツカナ）ヲイカニモ少許又リテ馬蹄ノ跡ニタツレハ即蔭之駒す
ラハ左足ザウヤヲツハ右足ノ跡ト心得ヘシ 以上

數逆ニヤツリノ呪 左六丁ニモ円薬有リ

瘧病ノ人ノ出ルヤクリ咒ニハ其人ノ影ニ賦ノ字ヲ指ヲ以テ書テ
右トメノ点ヲオサエテ津ヲノメく トシテ津ヲノミセテ二度
ハカリ咒ハ則愈之 以上 楊叟伝
欬逆ノ薬ニハ煎薬之
一 丁子（大過之冒ノ時冷テ出ルニ吉之） 一 竹筎（甘肥） 大寒之熱病ノ時胃実熱ノ時用之
柿蔕（平之） 柿テイノ柿ノ薬名ニ三方寺ヲ歴テ梅ト改呼之 揚雲伝之
瘧ノ落薬 エソ瘧モ同之丸薬ニメ七九粒与モ吉之
一 枯（エニ）ヲ丸ナカラ黒ニメ耳カキ一ツ二ツホト以水与之 以上（予三忘形伝之）
同
一 黄蘗粉一 硫黄同 抹合 以水与之 同 アタリ日ノ宿夜食

後子サ三用テ其一、宿寝タルカ吉之トモ云 以上（玄慶丹波ニ伝）
瘧薬 一兵壽子 抹メ常山ノ葉并ノ桜汁ニテ与之 日
一 腫物ノ、シヨセ アブ首ニナシテ悪血ヲ汁ニナシテトルニハ腫ノ
頂上ニ針ヲ立テ針口ニ蚫骨ヲ入テハリ塞之アタリニハヲシ
薬ヲ如常スベシ 先ヲシ薬ニテタカクシテ其後針ヲ立テ右
ノ薬ヲ入タル吉之 （錦月伝之）
屁ヒリ薬 （ニクキ）
一 桂ヲ虫ノ蝕タル粉 小一 温石 大 合メ湯ニタキ、モ又茶ニ入テ
モ与之 以上 巴豆ノ皮ハカリモ抹メ与之 唐人ノ云之
十一ヅノ薬 芫野稜ニ本伝之

一秘 大唐ノ根ヲ竹刀ヲ以テ切テ雷盆ニテスリ米ノ酸ヲ加テ唾ヲ添絹ニ包テサラ者竹ノ筒ノ口ニ押入ナマツシテハ其ノ切目ニテスリタクリ其汁ヱ大黄ヲミテナヲルナリ古牀ハ悪シ 以上

歯クサ其外一切クサノ薬ニ

一尾長虫ノ黒焼ヲカミノ油ニ粘メ付ルヘシ 河井伝家法

虫クイ歯ノ薬

一ウナキノ皮ヲホシテ黒焼ニメ遠志ホトニ丸メ歯ノスノ内エ指入ルヘシ 森木ナトヲ虫ノ蝕ニハ右ノ皮ヲチサク切テ穴エサシ入ヘシ 曰

耳タレノ薬

一節分ノ夜ヤツガシラニシタルユハシノ首ハカリヲ黒焼ニメヤムカタノ耳ヘ池ニ合テ入ヘシ 以上 （ヲトユハシハ悪シヤツカシラノヲ用ヘシ） 曰

撲損ノ薬 （曰山梔ノ實ヲスリテ膠ヲ以テ赤豆ニ粘メモ付ヘシ 是モ亦吉 曰大根ヲ生デスリテ付ヘシ 是モ亦吉）

一胡芦ノ黒焼一種ヲハコヘノ汁ニ合メ付ヘシ 以上 曰

・痔口ヨリ汁ヲイタサント思ヘハフツリサヲ黒焼ニメハコヘノ汁ニ粘メ付ヘシ 以上

痢 （久痢虫胃能ナ薬不平ニメ及死去時ヨシ後ニ死去者ナレトモ痢ハ此薬ヲ以テ愈ヘシ）

一牛皮黒焼ニメ膠ヲ以テ〇竜ホトニ丸メ六七粒以飯湯ヨシヤ二度モ一ノ方ニ牛皮ハキツヽケカ皮ナトノ迷ニナツテ古テ垢ノ付タカ吉ヘシ 以上 （[illegible]）

ウヂクダシ 疵ニモ又腹中揃テ虫ノ出ル有ニモ

一霍乱（イノミリサシ）陰干ニシテ抹メ一ハコベヲ香色ニ炒テ同分ニ合メ
常ノ下（タダシ）ニ加薬メ五十粒ホト以湯ニテ以酒ニテモ服之宜
ウミリダシ
一ハコベ如右拵之一大黄同分ニ合メ酒又ハ以湯用之粒数如
前膿（ウミ）ウデ下ノ時ハ霍乱ヲ加之鶏乱ハ惣身悪ノツクニ奇妙也
薬之病ヨリウデ出ルニ霍乱ノ薬ヲ布（シイ）テ其上ニ寝レハ消之又
ウデノ湧リ糞土ナトヱモ入レハ其虫悪死之以上
一粒丸　痢薬（ハラクスリ）　先ヨリ度々服之
一巴豆一粒去皮香色ニムシテ飯粒ヲ七粒入テ一粒ニ丸メ
茶カ葛ヲ衣ニメ赤痢ニハ罌粟如常三四ケ蓮ノ茎ヲ
手一束ニ切テ三本入煎メ以テ用之サテ服六冷氣ヲ以テ用之
瘤ヲ巻切薬（生得ノコブ又ハキリ疵ナト瘤ニナリ撲損ナトノ瘀 コブトナリタルニモ一切瘤ニ吉之）
一巴豆一草麻子各去皮同分ニ合スリテ絲ニヌリ付テ其
絲ヲ以テ瘤ノ根ヲユク之サテ日ニ一度ツヽ絲ヲシメベシ七日
ホト歴テ後切之アトナカラントセハ膏薬ヲ先ツ絲ニ付テ
其上ヱ付薬ヲヌレハ其瘀之カウヤクハ猪ノアフラト松ヤ
ニヲ合メ常ノ膏薬ノ如ク子ルヽ之以上
写○産後ニ煩ニ吉薬目ヲマワシ血心ナルニ本薬ヲモ一両又
（常ノ）四物湯ニ加薬一蒲黄一両一黒豆二両一桂心一両一
干姜二分一甘草少右各合抹粉薬ニテ一銭ホト湯ニヤキタ

テ、与之以上

子産後産前手負十ト横寝ヲ保スニモナサヘ妙薬也

一アカサ（不出烟焼ニメ以酒ケス）一川楝子（一夜三日酒ニ漬テ竹刀ニテ割ホシテ香色ニアフル）

一龍脳（去皮生ニテ用ユ）一沈香（不出煙焼ニメ）一（鳥乙）アラ（焼ニメ）（京ニテハメバルト云之若狭浦ニアリ宮下アカウ之ト云）

一干鮭 各合抹以湯又酒与之 ハリイ薬ト云ナリ

○仙人丸（ハキゴハレ発症薬左廿二丁ニ有此法）

一巴豆一分 一白粉 一大黄（各三分）朱ヲ衣ニメ備急丸ホトニ丸メ

十五山ニヨリ内ニハ服ゴ色ヅキタラバ五十粒九ヨリ上ノ人ニ六

百粒以湯与之 歯ニサヱス丸呑ニスベシ 以上

○牙ヲ撲損レタルニハ

一苦辛 一黄蘗 同分合抹シテ紙ニテ腫上ヱ引ベシ 家

ヲ上ニハリタルモ吉之 亦ハコベ汁ニテモ吉之 疵口ニモ付之以上

○血クサトハ遍身ニ紫色ニチクチクト腫出テクサ心ニ

瘡出之

一鹿ノ角ヲ半銭ホト湯亦ハ以酒与之 此薬ハ衂モト上ニル（ふれれ候）

衂ノ出ルニ

一蒜ヲ生ニテスリ手ノ内エヌレハ血別トニル之同

刺ヲレコニリタル薬

一松茸 一生栗 一サメノウラ皮 一串柿ノサ子 各同分合

何モ忌火ロヲアケテクチニアマル袍入テ瘡口ニアヲキ葉ヲ

かり付べし

（右一蟷螂ノ付ノ）

瘡ニ臭気有テ虫ワキ出ニハ（虫ニヌリクイニ押合刺口ニ湯之刻捻之 サゲ汲ノ秘薬之右松ニ有伝之）

一蕎ノワラヲアクニメレテ細ニの洗之吉

煎薬上ニノ薬之

一ワセノ飯ヲ霜ニメ中ニノ沖亦ハコベノ汁ニテ付之人焼炭

而[illegible]ニテヌヲ日合ミクル吉之以上伝白

・チリゲノ薬

一栗ノ木ヲ虫ノクイ出テ鋸屑（イクヅ）雪ノ如クナルヲ霜ニメ沖ニ

粘メ付之ワヨキ薬之内エナシ竜丁アリ口伝 口人

（一犬糞ノ霜ヲ付之其外何ノクサニモ吉之日納伝之）

虫クイ歯ノ薬

一ミノ虫ヲ巣ナカラ霜ニメ楊枝ヲ以テ刺入之　松原口伝

虫気ニテ腫気イツルニハ

一枳實ヲ煎メ呑之又葛ふヲ煎出メ治モ吉之　枳実ナクバ

青キ時四ハカリニ破テ陰干ニモスル又常ノ枳殻モ吉之

毒ヲサヽス薬

一燕ノ皮子ノ糞ヲ細抹メ一匁ヲ霜ニメ一土竜ヲ合メセヽナキン

ちヲウスク立テちヽ世ハ霜乳又ハ癩病何ニモ吉之　日納伝

一ホロシノ灸不一ノ骨ヨリ亀ノ尾エアテヽ本ヲ元テニミ打テ

骨エアテヽ人ナカヲ大ニメ一火灸之　日納

速クヰリ薬

一ミソ萩ヲ七月取テ陰干ニシメ一茄子ノ花陰干抹合メ米ノ
スリヲ以テ付之股ナトハ一ツイデコ又ヒハラヱカ子テ付テ次第
くニ去ルやウニ付之　以上　口人

クサノ薬

一白礬一　白粉（各少）一　蘗末一　大黄六一　煤少一　花ノ末
一蜂房ヲ黒焼クサニハ酸ヲ以テ溲カサニハカミノ油ニテ付キレ
クサニハハコベノ汁ニテ　以上　口人

腫物薬

一杉ノ皮一　イタチノシノギ　各末ニメハコヘノ汁ニテ付也
杉ノ皮ハアリモ去や　以上　口人

痢ノ薬

一翡翠ノ末一　鶯粟（上下障子去テ内ヲ掌）一蓬ノモミカラ手一束
ハカリ一耳斗天目ニハカリ分ヲ入テ七分ニ煎詰テサマシ
咲南皇ヲフロシ茶一服ホト与之トマリ比ニ唯湯之粥カ
飯湯ヲ濃（コク）メサマシテ与ヤ若シハ老者ニ呑之　以上　右明
日廿ハカリノ人ニハ
一麻ノ葉ヲ若キニメ又ハフツセ麻去之陰干ニメ抹メ味噌エ
ヲ井カニモウスクシテサマシテ呑汁ニメ与之　以上　日
日（童ノ痢竜ヲ抹メ次第ニテ与之末飽ホト与レハ留之　汁菜ハイクタビモ与之　以上）
一串柿ヲサネヲ去テ肉エ味噌ヲ入テ黒末ニメ抹メ飯ノ湯

ノ月サマシテ用ル

大病気ノ灸

一臂ヨリ手ノクウエ痛テ打テフジサンリヤクヤ以上

ヘヒクイノ薬　（同石ニ川ヲ生ニテスリテ引之油出テ吉之　若痛ヤミ昂吉之　小野大和ニ而伝）

一首ノ蚓ホシテ一ヱユリ芋一ツチ蚓三種ヲヨクチヱ打之
アメリヱハ一牛蒡一ヱユリイモスリテ酒ニテトイテ付之
ヱユリ芋蒴クハ将吉也以上　そもとゆく

腫気ノ灸

一腋（ワキ）ノアバラ骨ト背骨トノアワセメヲ（ワキト背ノ間之）一火モ二十一卅一丁モ
其人イタクトヨルホト灸之女ハ右男ハ左ニ一方灸之以上　小沢侑子覚ヲ

指スニキノ薬

一コイ虫（蟬ニ在）ヲツフメ付之以上又馬糞ノ茸モ吉之以上

胸虫ノ薬

一サマシキ昆若ヲスリテホシテ芦毛馬ノ尾ノサキヲキサミテ（馬膝吉）
昆若ノ三分一加テソクイニ◯ヨレホトニ丸メ三粒ヌル湯或ハ
酒ニシリテ呑之　秘伝有

蛇執大ヲサニス　薬

一梅ノ木ノ心ヲ削テ煎メ用之凡熱ナラハ子フカヲ三本
入之以上　以聞ヨリ伝

吐却トメル薬　耳カキ一ホト以湯呑之　小沢婦伝宜れ

一藿香（一名火ノ） 一伽羅 一干姜 各一分 一倭 一白朮 各少 一白梅花 （各極合）

ノ田虫ノ薬

一田虫ヲヒヒニスリテカタバミト私大黄ノ根ヲ判テ磨テ粉ヲ
半分ヲ付之一色ニテ治之 若ハ二色 田所玄坤伝

ヤミメノ薬

一白礬ヲ其ノ下ニ抹メ水ニ解テ芹ノ根ヲ以テ目ノアタリ亞リ付之
下座ニ無隠ハのりし以之 口伝

唯気ノ薬ノドヒゴツニリテノ息気不通ナトノ薬

一芒硝（シャリロウ） 一土黄 一白礬 各同分但芒硝ホ直ニテ吞之 又
硝ニ包テ含之水ニヒタシテノ含 舌別早速有効アリ （海弁甲斐守佐野夫人伝之）

臁下 （外気ニ及ブ）

一いちくの実を引つて抹く 一木子 抹して同分ニ合て丸薬して 男ハ二十粒女ハ十粒五粒ものみて下ニ志うハ塩湯にて呑むべし
利下 散薬にしても吉之

腫気をひく薬

一滑石を抹して臍のうへにのせて押へ利る 吉 男ハ左女ハ右の方へよせてたおくへし
眼病ニ服下 一白朮 一京ニ積 一荊芥 一防風 一車前子
以上同分ニ合して散薬にも丸薬にもして七匁二匁三匁も
用や 丸薬の時ハ以茶にて下へし 合宗極々
以下 一黄芩 一生地 一大黄 一赤伏苓 一牽牛子 各当

一巴豆一粒 一本草廿 右以上一瓦ニ蒸一服ホト以末ちうし
飲食後廿丸（五合之）
寸白之薬 下血ニも 此薬よし
一白膠の實を浸にして醋に一宿して常也男根の包て
沖とうて一本草一分一肉蓯蓉一粒合せ去て
丸薬粉薬にして酒にて食前に用之七日に當の
出へし常ある汁を呑也其絶ハ治ると也此也へし
丸薬ハ十八粒以、用ゆり此薬ものいとく食飯
得ハ下し（三七之 四月）
千クサ刀瘡クサトナリ名ルニハ

一鶏ノアフラト一猪ノアフラトヲ同分ニ合メ鳥羽ニテ付之
別書 表保傳
クサケシル出テミサ〳〵タルニハ
一カタ貝ノ灰ヲヒ子リ塗レハ別乾治之妙薬之（居ニ出名ハ以）
勝花傳受
（十九 九十二 山傳 疾誌）
蓮ニ瘡 尻穴アタリニチリ〳〵ト生メリ〳〵口痒ナヲリテハ生〳〵メ
後ウミシル出ハ只ハ蓮ト云 雞（トサカ）之 フスヘ薬吉之 目ノ色悪メ炊之
痔ト云 蓮ハ外ニ不生 穴内ニ生メ赤ク穴外ヱ出テ苦痛スルモ
（十三）痔 蓮トハ尻穴（ヨリ）根ハカヽ穴外ヱ生之 易治之 童ノ時破汁ム溢
ナト後ニ蓮トナリ名ル物也 瘡柄破大[illegible]丸ハ付薬内薬以[illegible]テ

瘡ナレバ日數少ニメナヲル不レ破ヲハ根指ヲ以テ悪血要（矢ヲ嫌人ハ漆ヲ多合テ破テ一の瘡ニ）
根ト云レ枯メ醫スレバ日數ヲヘル也。養性ノ次第ハ左ニ詳也 付薬
（五シヤリ薬 柿霜）四葉同前也十日廿日ニテ悪ナヲルトモ云テ
肉茱一 黄芩一 王連一 大黄一 莪朮一 兵郎子一 木サ 各一匁（蛇骨一匁合テ飯ニ合メフスヘル也ニ疵ノアル平肉エヲモ付テモヨシフスヘル也）
（一茴香二分）一地黄一匁二分 一山皈来 稲ノ茱ヲ并メ其ノ三カ一合之 忌鉄
右以上合メ七包ニメ煎服之 一包ヲ三日ツヽニ一ヲ呑了煎
授初服ニハ天目一盃分ヲ入テ八分ニ煎メ服ス二服ニハ一盃ヲ
七分ニ三番ニハ天目二盃ヲ一盃ニ煎詰テ用ゆ廿一日用之
（△ノ分 唐瘡ナトノ新破タルニモヨシ）付薬一 干黄（土竜ヲ代ニス）一 炉（耳攙一ホトツニモ又ハ多入タルホト吉之）甘石一 虎皮霜一 午膝ノ霜一 狼毒ノ霜
一黄蘗生抹以上同分ニ合抹メ先瘡ヲ大根ノ水ニ芯テ分ノニテ

煎沸メ一の洗サテ粉霜ヲ乃地ニ付テ其上ニケム薬ニテフスヘ
ル也 一雄黄一（一朱）信石（一朱）○各同分ニ合メサメサニ桐入以要フスヘルヿ（フスヘ薬ノ仕様ハ四寸ハカリニ丈中ノ中エ雑テ卧ニ夫ニ又井筒ノ右蓆ヲ卸テ瘡ニツシアテ、筒中ヨリフスヘルナリ 晩晴ハケムリト一ツリテ）
七常ニメ其上ニ右ノ付薬ヲフスヘシ 廿日モ十日モ治ル日ニ一返（カサニヒヒト通之）
咽ノフスヘテノ付薬ヲ用之 ○肉薬 付薬フスヘ薬同分ニスヘシ（根又キウチテハナスルハ禁物ス ヘカラス也）
根指一 五サ 生ト霜ヲ同分ニ 一袋蜘（ツチクモノヿ之） 首ト足ヲ去テ生ニテ其サト同分ニメ
以漆合之打テノ上ヲ脣ニテイクヱモノリヲツヨリ洗之巴豆ヲ
不入之合 蓮瘡ノ上ニハ根指ヲ面ニウツヘカラス灸或ハ針ヲ立テ
其上ヲ鳥ノ時ニ打針モタテタル即時ニサシ薬トテ以竜之
又一野鼠（生モ霜モ不嫌）胆之 一痛サ子霜一蝿 首ヲ去テ筒ヲ四ハカリ
一耳サ サ 以上

又巴豆ニ一種ハカリモ別ノ用ニハウツトラヘトモ是ハ非ニツヨク苦
痛ニ巴豆ハナヲリテ後赤ホコロヒルニ幼童十ト八孔スルコ必ニ
巴トヲウチタル瘡ハ黄色ニメ膿出生ニ痛キ處シカル物ニ
又人ノウチタルヲ見知事如右ニ
痔ノ瘡治目前ニ肉薬同ニ結セハ下不結ニハ不可下（或不入）
クタシ薬 一王 一天 一莟 各一匁 一朱中一匁 一人参少
一巴豆十粒 各抹合ニ黄ホトニ丸 丸五十粒以茶与ヘシ
ニテ後サシ薬ヲ用ニ
サシ薬ニハ 一硼砂少 一蛇骨 一茄子ノカウノ物ヲ黒焼ニメ
各同分 一干姜少不焼 其ニヽヲ少加ニ是ヲ糸ニテ粘メ

茄子ノカウノ物ヲウスリヘイテソレニ包テ（巻入ニ）穴エ押（付置）
テヲリヤ一日ニ三度ハカリホトえカエヘスヘシ 苦痛スルコ
吽ホトヤトテ

・唐瘡 新破タルカケ唐モノ了之

・肉薬ハ蓮瘡ニ其吴後洗薬ニ 一車前中 一金銀草
一塩以テ煎沸メ洗事如右
付薬 一王連 一黄莟 一耳草各焼又 一鹿茸（生ニテ）
一蜂灰或蟇蛎又蛇貝灰三種ノ内ヲ一種入ニ 一鹿皮焼
一天南星（生少）以上不此エ焼粉ヲスリ付ニテモエ此黒薬ヲ
付ニ蛇貝ハ塩ヲ入テ焼ヘく（スルヨ）一日モ二日モメ後灰ニスル如此別

キヽ二ス也春性流ル可魚鳥生テトモニ禁物也青モノ海

菜麺類蕎酒油氣山薯里芋ホ禁物之菜吞ルヘ

後一七日右ノ禁也　又付薬ハ半丁末ニアリ

疳洗薬薫物之事　一石菖　一ユイ　一枇杷葉　手一束

一梧桐　一ユイ　一萹蓄　一ハコベ　一ユイ　一金銀花　日　各煎用

ヌルトメ疳ヲ洗テサテ薬ヲ付ヘシ

愈薬　一蟬脱焼二分　一雄黄一朱　一鹿角一分　各搗篩之

又一羚角以鮫ヲロシメ二分　一蘗粉ク以髪油付し

又一虎頭霜二分　一沈香一朱　付け也

疳ロヲヒラカセテ内ヨリナヲスニ　一柿霜　一田螺灰　一カイ

多ウリノ霜各四分ニ合メソクイニ合セ疳ノ外エ押

付レハ疳口外エ開之ツヨリ苦痛セハ先以ハナスベし以上

疳ノ内エハ第ノイエ薬ヲ油ニテネリ付之　以上

大破丸　唐瘡ノ付薬　一黄蘗　一車前子霜　一虎頭霜

一牛膝霜　一地骨　一蟇蛎　一牛黄　一炉甘石　一以仙薬

一石三川各一分　一鹿角　一大黄　一黄芩　一輕粉　一霊

天蓋各二分　一石膏少　以上

同一鎬砂　一車前子　以上

フスヘ薬　集瘡打目瘡ナトリ　一蒲萄ノ根ヲ割日干抹メ

一雄黄各同分　一信石少　以上　抹右メモクサニ巻入瘡上ヲ

フスヘヒし血上ヱ齒莖アタルハ齒缺之
齒、クサノ葉一野ノ忘ノ根一焙各同分一硼砂少一蛇骨少
各黙（カヤキ）ニ粉メ白礬少加テ付之
血止メ一山椒（ミモサ子モ）スリテ疵ヱ付テ其上ヲヨク結（ユイ）置ハ留之
又一麻カラ乳疵ノ上ヱ付テ奈土ヲ捫ゑ又其リン一ヲ捫テ流ハ留之
血下一アカサノ実ヲスリイ抹メ一アカサノ木ニスクイ一川ニテ
ニスクイ一黄芩一分一王連同各抹メ焼塩ヲ酒ニ入テ以テ呑
ミテ之（是ヲ膳氣流之）
子ヌキ（イタミナリテ擁之）
一比霜石一天南石　比一ツハ天一ノ三カ一入テ続飯ニテ
丸メ針ニサシ竈テウス焼ニシテ七ヱ付之丸ヤウ形容
可傳河井傳右衛門

丹毒ノ妙薬猿ノ楔世夏流之
一鬱生粉一旧ノ葛粉各同分ニ合メ野花ヲ常ノ如クニ湘テ皮
ヲムイテスリテノ如ニテトイテ漉メセイナノ如（一スミタルニテ）ニウスクウスク解テ
同合ノ茶ヲ茶二三フクモ其上モ旦竟ホト入テヒクヤ固菜ニ
先右ノ薬ヲ二三フクホト呑タルカヨシ固互押コト又用心ヤウ人
一痢ノ薬茄子ノ花カツキテ乳テ陰干ニ又抹メ唐菜半匙ホト
呑汁赤痢ニハ野油花ヲ一ツ煎メ耳サト當歸障子上下ヲ
吉丁如常サ服ニハヨキ葉ニ以テ呑之以上（以休許）

一ワタ入ノ妙薬　女霊天蓋ノ臉（ホウ）サキヲ不灰（ヤカスシテ）ヲ抹メヒ子リカケル

之以上　日人

積聚ノ薬　美濃し庄城跡お作　天而七月

一枳殻　一樫根沸ニ一宿メ剉　一サタヽビノ根　一野花ノ毛ハアリヲ

各一匁　一蒜ノ茎（キサミ一分）　一甘葛莪ノ葉二分陰干　一木香サ

各合メ散薬ニメ茶三服ホトツヽ酒亦ハ湯ニテ三七日二七日往

篇日数ヲ七日呑ミ以上

中風ノ薬

一フウトウカツラ（フツ子ノイニ）陰干ニメ五匁　一桑根（桑白皮）三匁　一枸杞葉陰干

ニメ一匁二分　一黒豆一匁　一干姜二分　一蓮根剉日干メ

一黄蘗各一分　以上　各抹合メ散ニメ茶三服ホトツヽ一日ニ三

度ツヽ温酒ニテこの呑　此薬ハ茶三服ホトヲ一服と云　秋冬

寒月別宮ニ薬之春夏ハ二依テ人〻三秘薬之三条

稲葉伊豫守ハ何故稲伊賀まてん秘薬潔たぎのまゝも

敢ふ云人似屋中へとろくとりまへ如中旅談先殿之薬様ハ

此夏の薬ハ蘩（つわ）をさりて男の薬そうりきうめまゝて日干メ

さて酒ま三百二度ツヽケテ取稿テ時ハ陰干ニメ色々之

薬の根ノ上皮ヲコソリ本そうと来とも前ためて是も

酒ニ三百三度漬てで陰干ニメ黒豆をん引ツヽて

能ク日干メ仕べし　以上

△中風ニテ口遍身あつくまわりあつきなとゝいふ腎（腎）薬を用ル薬

一薬ハ手足ニ痺ありて心ノあしき所ハ不もちいと苦（ス）桔（リウ）梗などの根ニ

なりたる時一粒（ニス）つまみに酒一杯三度ほど呑て足を

あたゝめ酒ニひさしくして抹メ蓬の根をたいてよくよくあたゝく

二匁稲米柿子も四ツにてもふめくおとにて揉て

餅の米を粉ニして蓄（リダ）ノ粉を少々（木の四匁一匁入へし）洗包の玉ほどニ稲子

右薬ヲ以病一日ニ三粒ほど毎中七ツ二ツ三ツ

男や女秘一ツもあらしまうちうすきつかほどして

薬時入へし腎薬右之ごと

△中風ニ抑気熱中腎薬の二十三の薬

一稲ふりの白根刻して剉三匁　一麻干（ひらゝ麻也）　一干姜　一枯椒（多少）

一蛤ヲ十ヶ酒ニ浸けて以上合抹メ散薬ニモ長命丸ホトニモ

（丸薬ニメ）一日ニ三度以温酒用へし　以上　但女ニハ嫌フ

△血散薬　江州應（ヲミ）和家伝ニハ秘薬也

一沈香　一車前子　各一匁　一地麻子　各三匁　一丁子　二匁　一當皈

（ヲロメ）一蓬莪　各二匁　一川大黄　一天南星　陰干　各一匁　一木香

一檳榔子　各五分　一鵲（丹ニハ金箔紹七ホト酒ニツケテ要ニメ）一ツ丸焼ニ要ニメシテ　一土竜　要足分

一土釘（十足）要ニメ　一金箔十枚　以上皆并兩合抹メ丸薬ニテ用

（ニメ）一蒂一服ホト以用之　右汁ハ痢病ニハ飯湯ニ白痢ニハ

濁酒ニテアタヽメテ用のむへし其外ハ清酒ハ酒と

癒ヘテモ酒胸ノ疵ニハ清酒含嗽ニハ黒豆ヲせん
じ茶ノ多キモ風毒ニハ茗荷ニヘの木ノ実ノ大根酒ヲ以テ
手腐ノ薬 一李（スモヽ）木ノ皮黒焼一匁 一シブカキ（ヤニベト云物之）ハ魚ヲ焼テ黒焼ニシテ一匁
一ミヽズウカノ黒焼セ 一鯨黒焼目ハ脂ヲ 一川ニラノ灰 以上目分ニ合メ
鯨黒焼ハ一倍入テ散薬ニシテ深キ腐ニハ以上ノ薬一服ホド用之
ヒ子リカケ薬ニモ用之 以上
ヨシ薬 一漆（ウルシニカブレタル）ニ一分 一大山椒木皮一分 一李木皮一匁 一猫ノ
糞黒焼少 以上米ノ飯ニテ粘メ帋ニノシテ押薬ニスル之
○毛生薬 何ニテモ毛ノヌケタルニ付之百日瘡ニテ眉毛ノ失タルニ付之
一猫糞黒焼一分 一鼠糞黒焼三朱 一アメ牛ノ毛黒焼ニシテ少 一硫黄少

以上合抹其物ヲ洗テ入レ置ク時ヒ子リ薬ニ入ル之
△集瘡ノ妙薬 （茶ニ服ホドアリ而重キ人ニハ一二服ホドヤルベシ）
一松木（古テ云稲ニ朽タルヲ）二匁 一川大黄一匁 一丁子一分
一煤少 一塩ヲ少加テ以上合抹メ和大黄ハノ根ヲスリテ米ノ
スミテ瘡ノ大小ニ依テツケ置ホトニノベテ瘡イクツニモ
皆五以鳥ノ羽付之一度ニテモ治之又二度ニテモナヲル之瘡多
大ホト早速之以上
五穏鎮丸 毒ヲ消鮮スル薬之 天照大神之深秘ト云
一ウツラ陰干二匁 一蛇床子根一匁 一丁子二分 一修一分
一アメ牛ノ角ヲ白メ一分 一冷薄五枚 一煤（朱半） 以上

抹合メ糊（ノリ）ヲ枸杞ノ葉ヲモミ出メ伸テニ交目アル鉄砲玉ホト
ニ丸メ半粒モ一粒ツヽモ以テ右之虫ニハ塩湯手負ニハ丁子一分
天目一ホトニ煎シメサマメ右汁ニス毒ト手負トハ悪血ヲ当
所ニ吐出シ能ク治リニ毒気消失取其二病之（是ニテ止ノ薬之以テ是ニテ治ス也）
一手疵ニ青鷺ノ羽ヲ二三、焼テ一二ホトカツヽ湯又ハ酒ニテ用ユ
一痃ニナフル之 又翡翠ノ羽モ同前之 又癖気ニモ薬之（存ニテ用ル）
一、痔ニ鵜ノ羽ヲ少ツヽ用ル之 [illegible]
一人ノ声ノトマリテ久々又ニ啄木鳥ノ羽ヲ少ツヽ以テ用ユル之 [illegible]
〇小瘡ノ薬 一硫黄 一霊天蓋 一黒胡麻糠 一鮑（ソウ） 篠（サヽ）ノ葉
霜ニメ 一蓮葉陰干 各二分 一小豆粉一分 一女髪霜一匁

以上合メ一モクサ一匁程テル如ク二メ 松原ニモクサニ交雑メ
巻入五寸（二尺ヲ三ツニ切レハ五寸之）ニシテヨリ合テ火ヲ付瘡ノウヘヲイクツモアレフス（ヘル之）
五寸ヲ皆フスヘ終之フスヘル先之落テ灰数ヲ灰ヲサラカ
サヰフス（ヘル之）以上 [illegible]
（一蛇床子）寸白之薬（蛇床子ト三葉ノ卯木ハ茎陰干ニメ合両何銅鍋中ニ煎ニスル之）
一ヒルムシロ根葉茎ヲ陰干ニメ一匁 一三葉卯木枝葉陰干ニ二又二朱
一カラミキヒ（一唐黍之 鳥人自日ヤウ使之）ニシ茎葉トモニ火ニテイリテ以上散薬ニメ茶一服ヨリ（急病ニハ二服ホト）
ハ理スル症ニ右之右汁ハ蜜（ミ）辛（カラミ）ヲ一匁ホトスリテ酒ニタテヽ用之
丸薬ハカラミヲ一匁ホト巳之日干メ入テ抹合メ鮮毒ホトニ丸メ
飯湯ノ泥ヲ以テモ或ハウス繞飯ニテモ丸之豌豆ホトナレハ五粒

以酒地黄ニ用ユ急痛ニハ粒ヲ増メ用ユ虫下ヲモアリ亦ハ
不下虫アリとく虫ヲ蟲ニメ以茱酸春ヲ縦ル人ノ寸白ナリトモ
蟲ニメ用別寸白ノ蟲ヒノ薬ニ況吾虫アリ名ナラハ添ル薬也
寸白ニハコメノ酸葉物也 寸白ノ蟲ニシタルノ春汁ニハ酸春ヲ用ユ（長氏杉丸在湯ノ儀）
寸白虫ヲちりて困又ありまく治る事なり其時ハ加しき
まりあるのつて其病へ入しるより常の虫あるれはきを見く
其ヨリ寸白あるもハ能こアル以てし要
寸白の為疾ハむしのとこまる时便毒よりアまうのうる
ある筋あらて こん帰を能くまくり覚て三も回も灸こ
初ノ一穴ヲハトラスハカキヲトシ二番ヨリトヲスヘシ秘ヲ（口伝）

疳ノ愈薬 一熊ノ頭（骨ニテモ肉ニテモ） 一狼ノ頭右黒ニメ一分 一麻角灰
（右同ハイ皆薬也）
二分 皆本薬也 一石菖ノ根ナクハ
一麻角灰一匁 一赤蜂ガラ灰二分 一河ニテ灰一分 以上合
其本薬ヲ常ノめく火ニアブリ小刀ニテチクチクトツキテ薬
ヲフリカケノヽ七重カサ子テ疳口ニキリ合スル様ニシテ七重
ナカラ付テまとまる様ニテ浸こ包しはるりて其の
上まてうまりたる時疳のいくまりる時あとをきまりとは其事
（疳口あるくふくよりて石菖の事故草をまきて薬をぬり付て疳中にまおひまりまえておくまり）
して洗へし 疳の様根まり付様口傳
あらい薬のまり草七いろ薬八いろ薬ありとい
一あらい薬 一犬たて 一たて二へ一石菖一せり 一菖蒲根

一萱菜　一にてくるん手すさミてロふみとり合て取て
り洗ひ茶一ふくわよいまぬるくして洗ひ　日人
歯痛ノ薬　尾方虫ヲ霜ニスルトキ海松ノ前ハチシヤノ葉ニ包
テ霜ニメ黙ニ粘メ以鳥羽付ル不ゝニ霜ヲ又用ノ時合ニ名モ同シ人
足ノ指　一こめのまをけつり麻ぬくさしいましく又抹して
そくいまたし合わり菓子ふちをつき　杉栗あまの有之
日　一黄檗末をまなふして以酒砕て能く付之　中山新兵衛
田虫の薬　一蚯蚓のふんを大黄ニ合粘メ付之　日人
日　一木綿のよき物を霜ニメ以湯ニ三粒ホト呑之　梅
胃風ノ薬　杉葉ニいてきし其名の手をなりてまぬまで

楞ノ杉あてゝ（一名ノセツコツと）のとまりを一火或ハ二火ニ灸ス神妙や　中雅
臓（ウニ）トメ　一西海子ノ葉ヲ煮ニ出テワウトムシテ茶ノ如クニ
干メ抹メ湯ニ以テ薬一服ホト以て一日ニ三度呑之　九葉干メ
薬一服ニ以テ粒ノ数二の事也　日人　又ウニ又紙ニト思フ物ニ
臓ニキ　一ひとつの石ヲ抹メ（カウハリニスルこ）かうかりのまゝまけ付てよし
いましてうらよりのまてたくこいよし　日人
血留メ薬　一（一ス八キリ）一ハノ根ヲ生ニテ割テ味噌ニスリ合テ濁醪
ヲ入テ伸テぬるくしあたゝめてつけこそて呑之以ひ　日人
（接骨膝加ノ根ヲトスニ何番トト名之）
（寫）麻疹気或ハ痘瘡或ハ眼ニカスミアルヲ失テ明ニナス薬ハ

一昆布ヲ塩氣をよく洗捨て烟ノ不出様ニ黒焼ニメ
細研抹メ目中ヱさすへし毎々ますへし 以上 口傳

唐瘡付薬 大破又小破ナルニ用之

一南天竹（ウハカハヲ去テ）ノ根皮 一匁 抹メ 一沈香（上ノ） 一霊天 一山梔子 黒焼ニメ
各二分 一狸粉 一黄蘗 一竹ノ茶碗ハタツ去テ根皮ヲ 各一分
一ヒキ蛙 黒焼ニメ 三分 以上 抹合（ヒキ蛙ノ 又ガミ人）油ニ粘メ付之
同呑薬 一黄連 一大黄 一黄芩 各一匁 一川芎 三分 一牛ノ（サレカウヘ）
頭骨 一匁 剉 如常煎薬ニメ七日与之
同膏薬 一稲葉 陰干 抹一匁 一松脂 三分 アシキ葉 二三把ヲ
水（碗）二三盃入テノ天目半分ニ煎詰テ濾メ右薬ヲ入ニ煉
ノ油サ加之濾スル也 後ニ右薬ト油入テ色付之ノ丸ヱ入テ
攪（ワカミ）合テ如常付取貝ヱ伸テモ又紙ノヘテモ付之吉ト八十九、

ミ墨ニイエ内出テ治ス妙也
同洗薬ノ煎物　一　楮ノ木ノ本皮一アツキ葉十二三葉ホト
一斗ナ三分煎出メ洗ニカシアツクシテ血ヨリルヌル〳〵ト
シテ洗ベシ妙也　禁食　油気　麺類　海子　生魚
葷青物　蒜ヒトモヂ　ニラ　鯛　酒　芋ナト
好食　鮑　アカウ　トビ魚　エリアゲノ水鳥一ノ鶴雲雀
寸白　痛卧ナルヲ治ス妙也　一　大蓼（タデ）ヲ秋刈元テ大（上）多手
一束ニ切テ日干メアミテ四五ニ銅鍋ニテ煎出メ七日モ
イクカモナツル間呑ニ食ニモ進テ吉ニ早クキク薬ニ
必ゝ可信敬ニ妙也　右二方伊与傳

寸白下　一　唐タチヲ採テ多ニテタテ、大根忍三盃
ホト呑ニ虫可下ニ　傳左今モ妙也
解毒ノ灸穴ハレタル方ノ足ノ大指ヲ中ヘメテ七ル廻毛ノ
ワキノツカイヲ只一火灸スレハ毒不聚ニ　片思伊治ス
ヨコワノ灸穴　手ノ第指ノ中ノ節ヲ本ヲ一寸ミヨセテ足ノ薬
指トタケタカ指ノ間ヨリ足ノクウエ押アテ、トニリヲ大灸ス
同薬　カニエヒノ根ヲ扣摧テ藍ノ蠟ヲ合メ酸ニ粘メ付レハ愈ス
腫物カケ入ルニモヲシ薬ニモスエ薬ニモナルハ鰻（鰛）ノスシヲスリ
テ付ナリ
聹ノ薬　鰹（カツホ）ノタヽキノシル皆一盃濃入レハ妙薬ニ痛テナヲルニ妙也

喉ノ灸　イタミル首ノ足ノうちまひすの骨ノこゝりの
くぼみを三五火灸之　延生ナラハ斜（針）ヲ吹出ス　死ニ灸之
虫歯ノ呪　一楊枝ニ弘誓深如海ト墨ニテ書付テ其人
ニ含セテ右ノ五字ナカラエ一火ツヽ灸ヲスレハ吉之
同含薬　一アセボツミソ湯ニテ煎出メクワエル之　口含ニハ
先鍋ノ底エ一寸ノマルサニワラニテ丸ヲメ（十八ノ分ヨリ三ツケテ）其ノ中エ歯ト云
字ヲ箸ノサキニテ書テ丸ヲ其ノ一ニ置テ煎薬トミソ
湯ヲ入テ煎出之　以上　片伊
痢　赤白共ニヲリテイキノ盛（サカニ）ナル時五八十シ○（葉上ヨ）柳色之大ハ耳カ
十四五ホト小ハ三四ホト痢ノ急遅ニ依之　以上　象祢伝

歯ノ根クツロキヨワキニ楊枝アリ含メ　秘伝　根深處伝
ふくミ宗扁伝　又晦ヨリ伝之
一ボケヲ楊枝ニケヅリ依之胡葱（アサツキ）メ先ツ焼塩ヲ歯エ
スリ付テ其上ニ右ノ楊枝ヲ使之　以上　みやう
中風ノ妙薬　一メナモミノ葉ヲ古酒ニ浸テ七度モ九度モ蒸メ
陰干ニメ抹メ丸薬ニメ以酒カ湯用之　以上　同人
やけどのまじない（或ハ　サル沢ノ池ノハタニ大蛇ヤケタリアジカヤ文庫ヲホテリエツ入リニケルト三反高唱　観伝）
さる沢の池の大蛇がやけけるを事してらせんくりあしの入と
三反となふへくうちゝの薬をとやけいら赤く酒をすると
薬ヲハ薯蕷（ヤマノイモ）ヲ生ニテ（十二）スリテ付之　亦澁柿モ吉之（シホリテツキタルモ吉之）　亦僕ヲ黒焼ニメ

。油ニ浸テ冷テ付テ吉シ以上ノ少沢婦ヨリ

△剱ノ不治ニハ鼠糞ヲ黒焼ニメ付置シ（田所伝郷右伝）

△瘴風不移他人其身一人ニテヤミトヾル第一イキ蚯蚓ノ首ヲ（蚓ト云ニ三年タメニ）少切テ其首ヲ丸薬ノ如クニ米ノ粉ヲ衣ニメ服ラテヤム人今ヨレハ吉シ（吉ノ伝法右伝ニ）

△瘴疫三日ノ内ナレハサキ灸足（小指ト次トノ間（三中）中頃タテヨリトニルトヨリ）ノツミノ方ニ踏タツレハイヅル胃アリ其下ヲウス皮ト厚皮ノ内間ヲカケテ大ニシテ一火灸ス四日ニナラハ不ニ灸男ハ左足女ハ右足但大熱ナレハ両足ヲ灸（常ニ右ノ事ヲ気付ヘシ）

△瘧ノ薬 救第ニモ又山椒ホトニ丸メモ茶一服ヲ三包ニメ一返ニ三包未ヽシ丸メ九ゲルモ其毒シ丑ノ瘧亦ヲチテソコナイテ久キニ吉シ（脇書）

一アツサイノ葉茎ヲ陰干或日干ニメ抹メ一兵郎子抹メ三分一モ或（男ニハメ兵ノ子女ニハ男兵ノ子吉シ）半分モ加テ以塩湯亦酒ニテ呑候（又兵ノハニ三男ノハト加リ候）口伝アリ一切ノ血症ノ瘡子サニ三一服痰半ニ一服暁一ト日ニ三分ハアサニシコリ口伝ニ吏天目七分ニ露出呑汁トス老童壮ニ薬貝目量ハかん（キツ）以上

△ヨシ薬 一アセボノ葉ヲ黒焼ニメ一フグノ腸（ハラワタ）ヲ黒焼ニメ同分ニ合メ酸ヲ入テソクイ膏薬ニメ吉シ イテキ初ニハ腫物ヲ遍クハリ童ニチトヲソクリハ首ヲアケテ押シ何ノ腫ナリトモ気ニ以上 大吏

△髪ノ垢 男女トモニヨチカラ身ニ才トス一二三年不残モ才ナシ

一ウセワラヲアクニ久ルト念仏ヲ十遍唱シナカラ乞ハナリ

又髪ヲアラフ時カケナカラ十遍宛唱ス 神妙之 伝法

ムソリノ薬 痳ニハソル又ハ寒性ニテソリニナルヿモアリ 右附
一アシケルノ爪ヲサメニテヲロシ麝香ヲ同分ニ合メ耳カキ
一ホトゆ湯ニテ与ウ妙薬也 以上 同人
ム目腫物ノ薬 一桑木一ボケノ木 右霜ニメ同分ニ合メ与
すゝくいて粘メ首をあけてぬり付乾ハ又ふる
乾し 妙薬也 以上 同人
ム丹毒ニハ 鶏卵ノ黄ナルト燕巣合メ塗付へし 呈花人傳
ム首（カミ）瘡生メ亂ノツキタルニハ一雄黄一朱同分ニ合メモクサニヒ子
リ入魚ツニ燻テ盤ニトメテ五ラ一夜ヲ包髪之瘡モ療
亂モ失之 清和

ム瘧之薬 厩ニカケル絵馬ヲ黒焼ニメ一枚分湯ニテ与之 滑川大和
ム喘息ノ薬 一雄黄一硫黄同分合紙ニヌリ付ノトノ中エフ
スヘ入火釜ヲ居入之 う焼魚 以上 竹安
腫物ノ薬 子フトヲ押付ニ妙之 端的苦痛やミぬし 泉山
一赤蜂焼（三両ニハ やキ枝皂）一西海子ノ枝ニ有（棘黒焼ニメ トゲノツヒタル）一小カナムクラ黒焼一葉
根ら一柴胡黒焼（各同分ニ） 西海子ノ実ノらホト合メツケイカウ薬
ニメ付テぬ常痛ヲヤメ腐ニハ塩硝ト竜脳ヲ少加之 極肉ヲ入し
疱ハ眼の後をきらせて出ス
一稲梅はとをせんじて頭をあらいつゝも呑し 川井伯安
大露浣ニ薬 要當甚（扱得蜜 和為唐人ニ傳之 縦数如中和傳し）

一杏仁　一桃のふ　一蓼の葉各同分すり合せ蓖の葉を

火にあぶりけてつゝみあいの文をちらて藍重ねるまとし

又薬をつけとも不移出べし大便閉れハ痛過すらく無益なり

換氣甚し以上

痢薬

一肉豆蔻　一甘草　一黄蘗　各同分　末細七ヶ蓮ノ茎

甘草煎る居汁ニス薬ハ茶一服ホト宛以上用ゆ

○黒くそ　白なすびのもと

一曼殊沙華の根白分ニ一宿メ陰干抹メ只陰一匕半蛙ノ

油ニ粘メ治後ニ付ヘ帯ハ治ヲ嫌ニ以上　朝般ニ旅

（日薬ノ葉ヲ揉テ硫黄ヲアワセテ布ニ包テスリ付レハ何モナヲル妙之　白十二ツ黒十二ツ黒ノイツレニモ吉こ　時移不見侍）

一腫物或子フトニテモ出テ三日ノ内ナラバ上ニ指ニテ鬼吉ト三返書こ

不為手物治之筆ノ出ル時め付呪バ甚促ホミケテ不用ニ下ニこ

トゲ指一袋蛛ヲ不去首足ツノ二ニッソクイニ合メ布ニ付テ張や　手指新ニ

○ヲモアケ不い押ぬ后以示苦痛メ抜へ妙之　根舟相待　如見存之

ヲシ薬ニ　曼珠しノ根ヲ剉日干メ分ニ浸メ焼飯ニ押合テツクイ

膏薬ニスル所ノ腫物ニモヨシ　朋待ウミノ出ル穴口ヲアケテアタリヲ押之寄

集瘡薬　二時薬トハし

一シノ子ヲ鉢ニスリテ荏ノ油ヲ瓦器ホトスルホト入テスリ合テ

土竜ノ黒焼ヲ茶一服ホト桂粉ノカキニツホト入布ニツゝミ先

タデ湯ヲ以テ瘡エスリ付テマサテアフリ付テ一夜経テ又

治スヘシ 瘡一ツモナリ治候 漬粉五劑カサウミ如也
アフリ付事肝要ニ候 福惠流本傳
蛇咬ノマヂナイ 初書ニ犬タテニ以テ洗ベシ
呪ニ曰 一ダンシツクダウノグワボウハ〇ムグロモナノ耳ダカ〇カク
リキモソヨソヨ〇サツニノヤミモ〇ソヨソヨ 三返唱 一ゴシウ〇シヤウ
〇大ギヤク除宝 三返唱 一白腫ノ蚯蚓ヲ二ハカリ 蛇咬ムロヲコロハシテ
其後人尿ヲハケナトシ以テ洗ル也 一蛇ノ咬口五六竜ノ露ヲヒ子リ
カケベシ 以上口人
寸白四名 一縄寸白 如縄蟯ノ如丸口アリ 一胴寸白 葉ニ似テ
トカリタリ 一鋸リ寸白 鋸ノ如シ 一貝寸白 魚メ如貝ニメ虫在其
貝中ニ

寸白 括薬ニハ 一人参 伏苓 各一分 一赤蜂ノ丸焼灰 一分二分
以上 連ノ汁ホトニ丸メ 一服ニ五十粒 呑汁ハ茄子ヲサイノ目ニ切テ
清酒ニ以 五局モ十局モ 洒テ日乾メ置テ用ノ時煎シ以テ呑汁
ニナスヘシ 以上不及
寸白 呑薬 奇一更似之 一赤蜂貝ヲ実トモニ丸ナカラ黒焼ニメ秦
一服ヨリ少許 早昼晩 或ハ朝ニモ 酒又ハ以塩湯呑 則必虫下ル
馬從来ヨリ黒焼ニメ 蜂灰三分一加テモ用之 馬使ノ一種ヲモ用之
赤前布ヲ帯ノガチメノ如ク和ニテ用之 在食ニモ赤於テモ
食スル者之 アラメト上方ニテセハ 甘なノヤガナメニ似テ少カ
ワルト也 赤虫下ル時 其状ノ形ニテカラミイダス之 外ノ物ニテ

カラミイダセハ毎又カエルト云ヘサル様ニ一周ノ墻ヲ荻
カキニスルヿト云々　以上

痲病（膿血ナト出テ甚ダ苦痛アルモ別治スルヿ）一ヲトナ以ノ十キ毒ち
髪毛ヲ霜ニシテ抹泰上モヲ合メ茶一服ホトツヽ呑シ霜ハ茶ノ
三分一加ヘ呑汁ハヘクサツルヲ夏ハ葉モ茎ヲモ搾出メ其汁
ニテ冬ハ煎出メ呑シ苦痛即時ニ止テ治ス　以上

便毒ノ付薬ヨコワノニモ吉　一サバノ首ヲ霜ニシテ白米ノ
中ナル赤米ヲ霜ニシテ米ハ半分モ三ケ一モ加テ米ノ醋ニテノ
ヘテソクイ膏薬ニスヘシ　以上　モト口伝

○膿又キニハ鶏（カケ）粟ヲ抹メ煎薬ヲ少加テ吉シ伍薬ハ樗皮

霜シ　樗皮焼時火上ニテ霜ニスル時葛粉ヲ振カケナカラ
焼シモ口伝　佐彦より相沢相伝之

○シワフキノ薬　萬重秘覚　作成法　一イトクリノ霜一鵲（クイ）
ノ霜ヲ少ツヽ加テ呑シ　用様口伝

○痢ノ薬　一鵲霜ト一ヲ蘆ノ霜ヲ同合メ三黄丸ホトニ丸メ
石榴モ干用モ湯呑冷ニテ呑シ口伝

血下　アシケ云ノ蕃汁ヲシホリ出メ車おあヲ搾汁ヲ同分ニ
合メ呑シ

仙人丸　膿下　梶原ヨリ相伝（右此二丁メニ有同銘似テ違之左六十八ニモ有此名伝シ）

一巴豆　六粒　一巣　一朱　一軽粉　目一　一飯粘　五十粒　一大黄（炒テ）　茶

一服ホトヘテ透ルヨリ小豆ホトニ丸メ五六十文童ニハ其内減ヘシ
一老壮幼男量スヘシ叓
刺（トキ）ノ呑薬同　一梨ノ木　一マユミノ木　一柿ノ木　一ク又キ　右各同
分量ヲ古噌ヲ梅干ホト青ニヌ酒ニテ茶一服ホト一返ニ
呑ニ子又キ六種熱ヲ少加ヘ何モ五月五日ニ取テ陰干テ
一説ニ右ノ薬ハ惣別熱気ヲ除クモノ也　以上
刺抜　一牛膝生　一象（ゲ）　抹メソクイ膏薬ニス　又一鵜卵（ヤニトリ）　破テ
巻碗蔭ニ入テ乾シ　一耳中少加テソクイ膏薬ニス　志以亦
鯁ヲ出ス薬
一半夏ヲ湯ニ一宿メ日干ノ抹メ吹鼻孔

衂（ハナヂ）トメルニハ蓬ノ葉ヲ揉テ鼻孔ニ塞ハ則血止ル之　同　松茸
ノ霜ヲ續飯ト合〇眉間（鼻ニ付テモヨシ）ニナスニハ即ト止ル之　新宮上総ニ相傳
痔ノ薬　蒜ヲ二ニサイテ天南星ノ生キヲ土竜ノ霜ヲ少加入
ハ別治シ　以上　左十一行ニ有同法
女乳ノハレタルニハ　附揉
一コナスビ一スミレ合メスリテヌリ付シ（大人ハ薬多クハ根ヲスリテ）續飯ヲ加ヘタルモ吉シ　男ヲフ[illegible]
タルシ
血ノ薬　一犬ノシリ毛一合霜（ホウ入テ表メタル）　葉（稍）霜　一カルセ麻霜　同合メ湯ニテ
呑シ酒ヲ以テケスヘシ
其一年中　腫物不出薬　廿六種何モ附揉相傳

一五月五日ニ蛇（小ナル吉）イチコヲ三粒齒ニサヘスメ以テ呑ハ吉却し

一虫クイ齒ノ薬 螻（ケラ）ノ頭ヲ绢又布ニ包テ一夜クワイテ寝し

一童ノ白舌ニハ一白礬一輕粉ヲ合又ハ輕しヲ少モ吉足ノ
ニラニソクイヲ以テ付し左右ノ掌

一董ノ妙薬 一少ノ破ナルニハカワラケヲ抹メヒ子リカケル大破ナルニハ
白礬ハカリ抹メ付ルや吉 日（烏圓ノ頭青キ蛙ノ頭ヲ合セ子リカケルヘし 蛙ハカリモ吉）

一胸虫又癪氣或團ノ腫名ニハ実カラシニ桃仁ヲサク加ラスリ合テ
付レハ則治ル吉

一田虫ノ咒ニハ田虫ノ丸サニカウヨリヲ環シ負ニ丸クメ桜ノ木ヲ其
環ノ丸サ程ニ皮ヲ小刀ニテムイテ瓦レハ本五田虫移テ其虫ノ
田虫ハ失テ去ル吉

○血トメ一チナイノ了 馬ナトノ針メヨリトニリカ子ルニ布ヲ三テ也付（虎角也）

一心経ノ偈 揭帝ヽ般若心経ト三返唱テサテ手ヲ洗之（三返云）

血ノ元ハ父ト母ノサカイニテ血トメテタヘや血ノミチノ神ト呪

一蟯（コスリ）虫（タイツ千虫ヨミ込 一向虫氣ニヨシ） 一石菖ノ根ヲ手一束ニ切テ煎シ（久年淫之症 賀雁ノ類乙 仏山行）呑ニ即治や

一唐瘡ノ薬 一馬ノ羊綱ニミタル牛皮ヲ黒焼ニメ軽粉少ノ加テ茶一服ホ
以湯呑シ則骨ノ痛ミ即治ル 全濃

血下（手負ノ）一巴豆一粒皮ヲ去テ米ノ酢（ス）四一入テ煎テメ又四半
入テ煎テサテ帛ニ三包カケテ打ミセ帛ニ泌付テ時後飯
ヲ少ノ入テ十粒ニ丸メ以茶呑シ一返ニ巴一ヲ煎スルニハ巴一十粒ニ
酢四ニホト収 度ニハ一四入モ巴豆ヲハ萬テ拵ヘ丸了ハ其時

ニスヘシ煎テ丸テ墨ノハキヽヲトル也 以上 子細アリ

一 葛根ハシルヲヒキイタミヲ止 府ノ最上薬也

一 鳥霜ノ代ニハ玄天（女香也）ヲスエルヤ○玄天蓋 傾骨也 志ニ茶方ノ中ニ詳也

一 人参ノ代ニハ桔梗ヲ用也 同 ミキヤシヤトハ脳ノ諸ヲ云也 京ハ人ヲ

焼タル灰ヲ云也 「霜ト黒焼トニヿ口伝也（霜トハ壷ニ火上ニテ焼也 黒ヤキトハ土器ニテ焼也） 岩田郷

（チノミチ）栄（キノミチ）衛（女ニ用也 男ニ用也） 調栄衛湯 心気ノ薬 寛（ハクロゲル）朧湯 散 山子虫ノ薬名也

（女中ノモガリニホコリ也）蓬蘆ハ吐却ヲ治スル也 積聚ニ宜上ノ薬也 鉄ノ毒気ヲモ丸也 左耳

一石ミノ初（[illegible]）

信石ノ毒ヲカエス薬ニハ白ヲ喚デナト炊イ也 赤豆チガエテナトノ形イ也 ○

一 茄子ノ漬物ヲ霜ニス 一 桜皮霜 同分ニ合メ含湯二枚ハカリ添テ茶

半服ホト酒又茶ニテ用也 山梔ホトニ丸メ十粒ホト呑也 常ニ不

指スルヿ用心ニ吉也 以侵飯丸也 以上 二官ニ示傳

○・噎逆（吐却トメル薬） 一 藿香（忌火） 一 伏苓 一 干姜 各一両 一 白朮

一 人参 各少 一 白梅花 半日 各抹合 耳攪一ホト以湯呑也 以上 山梔姉傳

○ 蚯蚓ノ呪 カウザウガイヽシコトバシ忘ルヽナ カラタチラホナ

唐鬼ノ氏 ムクロモチノモ 羊テゴダイニアラズ 我カ手ニアリ

三返ツヽ 三度唱テ噎ヲクイル霜ヲエタシ吐カケル也 三返ツヽ

三度ハ九返也 薬ニハ 梅鼻 石霜 吉鶏霜 土竜 同分ニテ合ス

ナモミノ毛ホヲスリテ付汁、ニメ以鳥羽ツケ也 以上 松山室ニ傳也

○腹ノ物ノ灸ヘ穴ノ丁中指ノ中ノフシノ間ヲ元テ胸ノ骨ノトニリヨリ下ヘソラヘテトニリヲヤリヘシ所灸之以上

○下血ノ灸 其ノ方ノ大指ノハラヲ臍ニアテヽ其トニリヲ一火灸ヘシ以上

○耳ノ鳴 其ノツホ男ハ左ノ足ノ次指ノツメサキノトニリヲ一火灸ヘシ以上

○喉ニ物ノ付タルニツホアリ後ノカミノツイキワノホノクホヲ一火灸之以上

○麻病ノツホ 両足ヲソロエテユイテ両大指ノ三ツ十カシ一火灸ヘシ以上

○腫物ノウミ薬 一上野砥抹メ 一カブ虫五ツ餅ソクイニツシ合テ付ヘシタル上ニシスベシ ヤカテウムベシ以上

○董洗薬 一クヌキノ皮 一卯木ノ葉 一ホシ菜 一スイカツラ 煎湯メ洗之以上

○口付朱ニハ 一蛇骨 一霊天蓋 抹合メヒ子リカケヘシ以上

△耳ダレノ灸ヤミ以耳ノ下ヲトカイサキニ井アリ三火灸之

△ウチカサノ灸 セナカノ骨ヲ一ツ骨ノ次ヨリ算テ六ツメト七ツメノ間ヲ極干ホトニメ一ノ灸気ハ能言ナレハ如才不言語ナレハ柚林ニ子語ニメ火ヲアテヽクヽ所ニ付テヤケハ焼田本ノ如クヽ薬ニハ鬼灯ヲ実ナリトモ根ニトモクワスヘシ以上

△ソリ虫ノ灸 孔入テモ灸之 一ハラツ腫ニカケテ腑ノ三ツ中五クラヘテ亦其ヲ喉ノフエヽアテヽウシロエサゲラセ骨ノワキツセ骨ヨリ二寸ヨケテ男ハ左女ハ右ヲ六丈灸之所病並愈之以上

喉ノ灸 毛端ノスコシ上ニ腧アリ 一ノ骨ノトツリノ中之五火灸之以上

麻病ノ灸 血ー白ー石ー何五麻ニ古之困口尻穴ノハタトツ本ツ九合

三中ヨリ一火灸シ第ノ灸ヲ三ヲ一九ツニナシ名比ヲ云矣男女同
シソ菜ノ葉一蛇ヤノムケカラヲ黒ニヤメ一雄黄ヲ同分ニ合メ
竹ヲ四寸四方ニ切テ塗付筆ノ軸ホトナル二尽ニ付火ヲ付テ
フスヘルヿ此奇覚也
岩石ナトニテ足ヲソコナイ右ルヲ治ル薬一餅米ヲ粉ニメ體
ヲ抹メ同分 楊芋抹メ半分ホト入テ足ツニ麻ノ油ヲ以テ付ル也
鶴虱ノ葉一黄蘗一両一チヤヤノ葉三両黒ニメ酒茶ニテ用也
撲損（ノ苦痛此ニ筋ワタミモナルイヤ柳ニテ可包ス）ノ薬フチヲ黒ラメ龍粉同分ハコヘノ汁ニテ解テ以鳥羽付ル也
疝気ニ三ヶ度メナラバ患愈ス積年ノ疝ニヨコリ手打気ヲコルヘシ
一タレミソヲ以テ芭蕉ノ葉ヲニテ其レシ以テ園ヲ包ヘシアカ鼠ノ糞

皮ヲ以テ帯ニモハタノ帯ニスベシ芭蕉ノハノ上モ右ノ皮ニテ
可包也
フキ瘡癢ノ治スル薬七日薬ト云也一三年ニナル好茶老天
ソノヒクイノトヲリヲ用ユ 煙粉七分 可阿片（アヘン） 此三種ヲ同分ニ
合メ〇ホトニ丸メ五粒ツヽ一日ニ三度ツヽ茶ニテ呑 五日七日
ノ内ニナヲル也
腫物ヤブレテ苦痛スル痛ヲ止ル薬一本ケシ抹メ酢ニ以テ一ワ
リ五ヤワキ引ニヒクヘシ内ヘ入レハ殊苦痛スルニ此治也
腫物カケ入シヲ治スル薬一檜木ノ皮ニハタヲ抹メ細ニフルイ足ツ
麻ノ油ニトロ〳〵ト練テ内ヘトツクト入ヘシ也
（白実如次気止ニ妙 淺シ）

ム腫物ノ押薬一赤蜂灰一赤小豆霜一鹿角灰一三ヒノ赤小石皮霜
抹メ各同分ニ合ニヒノ赤皮ハ不入モ好ソクイニ押合酒氣ナテ梅醋ニ
テノヘテ此薬押合テヨシヤリタキ方ヲアケテ押付紙ヲ蓋（フタ）ニ
スルナリ如常其左ホニテ押留ヘキニハ一ニワリクルリト押付口
ハカリヲアクル也大切ノ腫物ハ二三四五度モ薬付カエヘシ以上
○馬ニクワレタルヲ治方一車前草ヲ舂テ付ヨ又硫黄ヲ抹
メ付ヨ以上
○熊猿ナトニクワレタル薬一葛根ヲヨク濃煎メ洗ヘシ又生
栗ヲカミテ付ヨ猪ノツキサキタルニモ同前也以上
○犬ニクワレタルニハ門ノ閾（トヒラ）ノ下ノ方ニ土ノツイタルヲ咬タル歯ノ
痕ニ付ヨ苦痛ヤミテ妙也以上
○蜂ワタシニハ一蟹ノ足ノ肉ヲスリテ白薬ニ合テ付ヨ付リ時分
アリ候肉出テ後付也以上白薬トハ石灰ヲ百日程ニテサラ
シテ烏瓜ノコヲ入テ又サラス也冬ノ間ハ十日廿日サラシタルモ好
シ右細抹メニラノ根ヲツキシホリコ子合テカタメテ七日々干メ
○号白薬妙薬也白薬一種計ハ瘡ノ付薬也以上
○痢病ノ薬一舟原（フナハラ）或一本草トモ云也ホシテ茶ノ内ニテ抹テ
茶ニフクホト可呑薬ノ如ク立テ呑也赤白痢ニハ黒葛（酒ケ）
痢ニハ飯湯吉也湯ハ何ニテモ能也サヽシテ用也老幼男女共吉也
○髪毛ノワルキヲ治ニハ一白朮ヲ煎出メ洗也亦桒白皮モ吉也
以上端より

△クサケヲ見知ハヽ一粟粒ノ如クナルハ水草ト云一大フクレノ
如ナルヲハシリクサ赤野火クサ赤火草ト云ヘ一子フトノ如ク
ナルヲクサ子フトト云一底ニアリテ痛ヲクヽリ草ト云一
上ヒレテ底ノクサルヲアチクサト云ヘ一タムシノ如クナルヲ虫
ハミクサト云ヘ（毛より混云）
△クサケノ薬一イノコツチノ根一コヽヒキ米一ヘビイチゴ
ノ薬一ハコヘノ葉一カタバミ葉一車前草ハ一野草
炎天ニ究クサクヽリ草ニハカリ一フクベノ霜一赤牛ノ糞
霜ニメ一水クサニハ蚊合ヲ加テフヒカ子ニ塩ヲ入テ付ルヘシ
一火草ニモ用ヘ一草子フトモ用ヘ一クヽリ草同一アナ
クサトヘクヽリクサニハ八月醋ニテトキテ付ヘ
右草ケノ禁食ハ一餅一モロコシ一酒一キビ一ヒエ
○ソリノ薬一草麻子ヲ十六粒スリテ夏ハ水冬ハ温湯ニテ（白湯）
ワタ入ニハ一ヒメユリノ根ヲスリテワタニぬり付ヘ若不入ルハワタノ出
タルウラノ方ニ付ヘ○トゲヲツキ名郎眼ニ朱ヲ耳カキ一二三ホト水ニ
タテ、呑則トケ左右ヲアカルヿナシ（[illegible]）
○刺（トゲ）抜ノ薬一鰹（カツヲ）ノフシ三年ニナルヲ抹メ一柿ノ核霜一草麻
子霜一鱓ノ皮霜一蝿首不霜抹メ一車サ々各同合ソ
クイニヲシ合テ刺口ニ付ヘ以上混ノ
△玉抜一蜋（日陰干）抹一蝦虫（日陰干）抹同水ニ合メ續飯ニ

合メ洗薬ニス若痛スルニ為テ忌痛一ノ大酔（匕子リ紙包一匙ニシテ任ス）
（急ニソヽトヒ子リカケベシ）
血留 一硯川一種為末掛カケベシ 土竜ヲ加ルモ吉 墻一種
吉ニ係急ニトヾマリテセツヂヨスルニ以上 小野大和叔作
△口内ノ薬 歯動歯茎腫ナトニ吉シ 一山梔子ノ古キヲ（一丁ヘハ豹モ）
削一八ノ木ノ膽コソケテ同分ニ合メ煎出メ含シ温冷ハ
心ニ任ス之 明叔ノ秘伝
△労瘵ノ迷ニテ気ノ労メ気力無キニハ 童ノ小便ヲ天（一自己ノモ吉シ）
目半分ホトヽ酒ヲ三ヶ一加テ（一ヤニテアツクメ）空腸ニ用（経験七朝）朝夕気力出テ吉シ（以上 陳氏）
△胸虫ノ押薬ニハ 一三稜（和ニ吉シ）ヲスリテ煎ルトヨリ己押シ依人

肌ニ塗シ一重付テ其上ニ灸リツクルニ一キラカシテト思
バ百サス候ニトモ可入ニ 不傳 明秘
△丹毒ニテ赤腫ノ薬ヲツケテモ不治ニ六月小豆ノ粉ヲ水ニ
丁ドイ（一丁メニ治方有之）ニテ付テ即平愈スヨシ 日人
破瘡ノ薬 右調テ師置ニ右傳之
一 蚌ノ殻クイ為末ニメ一柿サ子為末同分一粧粉少一虎胆乳
一竜脳少一麝香少以上 竜ハ二ヲ愈ス 麝香ハ底ヲ
イヤス
同（一破瘡）一栗ノ木ノ苔（一葉モ）ヲ為末ニメ掛置或カミノ油ヲ以テ付ル 明秘（右調油此説）
同 鼻瘡ノ鼻ノシミ出ルヲ為末ニメ掛置シ 明秘

同　其毒厥シ抹メモ刷色之如珊　同雪崔乳煙粉ヲ少

加テ刷之（宜可慕哉）

△尻タケニハ山クモノ井ニテ一キラニハ五六月ノ内ニキレル

其ノアト又其ノ蜘ヲ取ニメ付之宜出置下ニ可隋

石川村

飯田（康）玄中写之

一栗ノ木之　冬ハ皮之春夏秋ハ葉ニモ木ヲモ煎ス同白酒

ノ糟ヲ酒ケノナキ程ニ洗テ栗ノ葉ニ添テ煎出ノヒヒ

滌メ瓶口ニ糟顆ツカサル様ニ洗テ綿ナトヤワラカナ

ル物ヲ以テ和ケヲ拭取之付葉ハ別ニ去之以上[illegible]

一菫ノ葉　電清ニ傳之

一虎杖（イタトリ）一三葉木卯木　一黒サヽキ　一ツト　一牛ヒメイ

一麝香ノ臍　一沈香　一乳香　一黄蓍　一香白芷

各等分ニメ細抹ノ料也　呑茶ノ時ハ右ノ茶ニカラ鮭

ヲ抹テモ宜ニメモ十種ヲ合メ十種ホト一茶ヲ入

之以酒用也以上

一 痔ニテ目ノツフレタルヲアケル薬

光明丹ト粉薬ヲ同分ニ合メ悪キ方ノ耳エ吹入ル之二三返モ吹入之 絶妙即ヤカテ目アク之 愈时眼ノ玉エ悪血取聚テ終ル事モアリカモ不苦之 以上（右葉ヨリ）

疔瘡ノ薬（チリケナシ似ナルクサ数ニ打ヨシ）（是唐人ニ官傳）

一 牛顖ノ霜一匁 粳霜一體霜 各同分ニ合メ米ノ酢ヲ以テツケヘシ 即时治之 日人

ヤケハタノ跡ノナキ呪（豫河ノ說世ヨリ右葉相傳）

一 燒タル人女ナラハ呪人ノ右足男ナレハ左足ヲ以テ燒タル上ニ念仏ノ六字ヲ七返書之マチナフ人立テ呪之 以上

射市ヲ繕フトモ云ヘトモ呪人ニヨルヘシ

一 壽命丹 或曰丸 労氣健忘集瘡目舞耳鳴一切病ノ薬 就中手負ノ内薬ニ妙也（多田法印ヨリ說世左支相傳）

一 ヲナモミノ葉ヲ酒ニ三宿干テハヒタシ〳〵メ其後陰干ニメ茶ノ如クノ蒸ツメ又日ニ干メ茶臼ニテ抹メ平延丸ホトニ丸メ葛ヲ衣ニメ地薬ニ食ノ前後無構 十粒 卅粒 其内モ用之 呑汁ハ茶酒其外ニ任之（汁以下松田作右衛門 蒜薊丸ヲ云）

一 糯ノ霜ハイエサ薬ニヨシ 油薬之タヽレタル物ニハハコヘノ汁ニテ付之 又血ノ道ノ呑薬ニモヨシ 呑汁ハ葛湯酒ヲ二一錢ツヽ用之 色レハ下ル物之 以上

ノ日ニ喉ノ好一切ニヨシ 箔ニ包テ合之 以上 士経

一　痢ノ薬．

一蝸（ミ）霜桑ニアルヲ用ユ　一蟬（ニ）脱皮霜一甘（一）艹　〇其ホトニ丸

五粒七粒ヨリ多ハ不用ユ飯湯ヲ以テ呑ユ痢ツヨクハ

鶯粟ト甘艹ヲ加テ其汁ニテ白ユ吉

一　腫物ノ子ヌキニハ

一．牛膝ノ根ヲ湿（シミツ）ニ一宿メ細ニヒシイテ陰干メ抹メシンヤ

漆ヲ以テ丸腫物ノ根ヲヌカントスルニサスユ小瘡ヨシサ丶ハジキ

ノ跡ヱモサス抔ニ形容スベシ　以上

皮ヲ厚クナス洗薬ニハ

一　ヌルテノ木一ニレノ木一イノチビ　此三種ユ霜ニメヒ子リ薬ニモ

ヨシ三種同合ニモ又一種ツヽモツカウユ　其道根伊浩之

一　霍乱ノ灸　田尾長つニお傳

一　臍ノ透（トヲリ）ヲ脊ヱ帯ヲ引マワシ脊骨ヨリ男ハ左女ハ右ヲ

灸ユ　以上

喘息ノ灸　珊傳

●一骨　●二　●三　●四　●五　●六　●七　◉八　●九

三トコロヲ三年ニ灸ユ其时ハ㝡初ノ年

先ツ八ツメヲ灸メ二年メニ其上ノ七ツメヲ灸ユ三年メニハ

九ツメヲ灸ユ中上下（八七九）ト覚ユ灸ノ数ハ三年十カラ五十

ツヽ毎方ニ百丁ユ渭之五灸ニト一年ニ一返ニ灸スルニハ七メ

ド九メヲハ骨ノ左右ヲ五十ツヽ八メヲハ骨ノ上ヲ五十

灸之総名五ケ所ヲ灸スル故ニ五灸ト云之　以上　同人

一　同主傳ノ分ハ
一ノ骨ヨリ算テ八ト九メノ間ヲ脊骨ヲ揃テ骨ニ灸ノカル様ニ灸之　数ハ病大急ナラハ五十ツヽ両方ヲ百也　常ハ三十ニモ灸スル之　以上　同人

一　發汗　風ナトニ吹テ気欝ノ煩ニ端的汗ヲ出ス妙也
壜ニア一松脂　一硫黄　以上何モ二朱ヲトリホトニ合ノ以茶三服ホト呑テ衣被ヲ蒙則汗出テ吉之　以上（主藤丹波ニ相傳之　但右）

一　ヤミ目忽ナヲル薬
白礬ヲ焼テ手ニ立テサス之　焼様ハ口傳アリ　貝ナトニテ火ノ上ニテヤツキブツ〳〵トニヱアカル時トリ揚之　サテ當テミルニ甘カ酸カト不分時ヨシ　焼過タルハ甘シ　不足焼タルハ酸シ　兼テ焼テ持之　以上　同人

一　茎ノ付薬　ヒ子リ揉之　コレニマシタル薬ハナシト云々　同人

一　女ノ乱髪霜　一粉白粒　月分モ半分モ又三分一モ　一麝香　或ハ不添モヨシ

一切瘡腫物痛瘡ホ　就中茎病ニ毒食又淫犯ホ失念メ不苦薬　但鶏鵝マス薑ナト犯ハ堅禁之　淫犯ニハ奇特ニキク口傳

一　手ヱ塩ヲ加テ始ニナリトモ又後ナラハ則ニの呑之　四ツモ半分モ人ノ任之　以上　同人

一　蚫クイノ薬　小瀬氏ノ相傳也

一 𤸪ヲ多ニ立テ付之 以上 三日ヲ剥リ難治之

薬車ノキ、カ子ル人ニ与テ薬キク口傳

一 百合草ノ根ニ米ヲ入テ厚キ帋ヲ一枚ホトサイテ入テア
クケヲ丸ク卷テツキ合テ饂（ダゴ）ニメ當之 以上 日人

霍乱ノ薬 是ヨリ以下遠藤丹波ニ相傳 柱ニ有

一、人參ヲ茶半服ホト粉ニメ湯ヲ多テ、當之 以上

疱瘡ノ薬 皆同白薬トテ在之

一 灵天蓋（男ニハ女〻ニハ男ノヲ）ヲ抹メ一黄（代ニハ黒豆ノ汁ヨシ）苓ヲ一両煎メ呑汁ニメ、以上

毒ヲ解薬

一 フウガウ櫻ノ甘肌抹ス 別ノ傳ニモ石ヲ云々 紙 以上

肉瘡ノ灸穴 謂之野飯之灸ト云 （蘇スヘシトテ送ル蘇ノ飯トモ云也）

一 ヒトサシ指ノサキヨリ大指ノ間ヱホシヲ取テ其本ヲ小指ノ下
ノウシロノクミメノ骨ヨリ腕ノウシロノ方ニアテヽトマリニ井
アリノ其ヲ覚ユルホト灸之 以上

ホスビノキヱル薬

一 ホスビノ大小ニ依テ小ナラハ一火大ハ三火灸スル之一火ツヽノ
間コトニカミノ油ヲ少ツヽヌルベシヲトレ心ノ時小刀ノサキ
ニテホスビノ黒キ皮ヲヒタヽコソケ落テサテ薬ヲ付ヘシ
薬ハ髮霜膽礬粉霜合テ灰ノ色ニナル程ニメ付之ヒ子リ
薬之煞剋灸ノ癥ナシ 此方无別義之 以上 （髮霜ノ三方一粉霜ヲ入ヘシ膽ハ少半分）

唐瘡ノ餘氣アリテツギメナトニ小瘡アリテ煩ニモ右ノ薬ヲ付ヘシ瘡乾テ疵アラハ灸ヲ一火ハ灸メフタヲハナシテ其上ヱ付ヘシ瘡一代ニ二度（ニ三日数ノ間四五日モ可催之）ヨリ上ハ不可付之大形一返ヨシ 以上

喉気（口内喉内ノ破タルニヨシ一切口熱ノ薬ニ）

一南天竺ノ葉ヲ煎出メ丹薬ヲ子リカタメテ丹礬ヲ抹メ同分ニ合メ絹ニ包テ含之常ニ丸メモツ之用ノ時抹メ服容スベシ 以上

齒瘡ノ薬 （齒茎カレテ齒ナカクナルニ此薬ヨシ）

一アカザノ黒焼細ニヒ子リカケベシ 以上

同薬 燕ノ（雛之）子ノ糞ヲ黒焼ニメヒ子リカケル之 以上

蓮瘡ノ薬

一シンノ漆一貝 一松脂一両 一硫黄ハ同 一金箔二枚 一鹿毛黒焼女

右漆ニ粘テカウヨリノサキヲ眼ニ病ノ熱トル如クニコシラヘテ其サキヱ此薬ヲ付テ瘡ノ疵ヱコメヱル様ニサシヌキスレハ漆ニテ瘡ノ内カセテカサニナリテ治之 以上

同法 （右ノ仕様ニテ若又不治分）

一金箔（二枚ホト）一雄黄ハ一朱（焼ベシ）一粉黒焼女以上五ヲ以テトイテカサノ内ヱ入テ其上ヲ二三火灸之 以上

痳病ノ薬 渇ノ清心湯

一柴胡一 木頭ハ 一黄連一 山梔子一 黄芩一 年中各

同方ニ合メ煎ツ薬ニメ如常煎メ用之 以上

風薬 咳気ニテ鼻塞熱スルニ用之謂之清意香（茶盛不審之）

一牽牛子（アサカヲノミ）二両 一苦辛ノ粉 一赤小豆（六月ノ好ニ尤妙也） 一白中ナナクハ代ヲ各一両ツヽ 以上三黄丸程ニ服審メ香汁ハ人任之（風ナトフケテ氣ウチハナフサカルナトニ用之ヲ衣数ヲ重アメヽナル時ハ汗出テ愈ニ三百粒）先肺熱ヲサマス之 此薬三十粒ハ三黄丸程ニ當之云々 以上

虫ノ秘薬 （オナク熱ノ虫ニ用之冷虫ニハ木香ト莪朮ヲ加ヘ之）

一伏竜肝（カマノ中ノヤケ土ニ五月十五日ニトル）ヲ多ク兆メ白中代ヲ同分ニ合メ散薬ニメ茶ニ服ホト用之 吾汗ハ艳湯ムチヲヤムニハ胸ノ上ハ同上上胸ヨリ下ヲ苦ニハ艳ヲ多クヨシ 以上

瘴風ノサマシ （江土ノ秘薬之三日ノ内ハ細用ノ細ニ服数ヲ可用之大小ニ依ニヨルニ汗イテサル間ハイクノ數モ可用之謂之柴胡或清肺湯ト云一之）

一柴胡 一黄芩（各二分或黄芩モ） 一大黄 一葛根（各一分） 一石膏

一黄連（各二朱） 一升麻（一分二朱） 一甘艸炙 以上如常煎服之

定血散 （ウミ薬亦チングハヲ止之ウチノ血シハリ血下両方ニ用之）

一合冠木ヲ黒ノ時分生木ヲ焼ニメ 一人参 一甘中 一川芎

一枳殻 一當帰 一夕薬 一蒲黄 此分血ノ薬ニ不苑薬ヲ以思意或ハ十味或五味或ハ三味煎出メ毛ヲ以テ右ノ焼ヲ貼之

加薬ニアラノナキ麴ヲ炒テノ焼ト同分ニ入之 産後ニハ悪血ノ不下ニ用之 以上

痢病ノ薬

一甘中 抹 一罌粟 抹 アマ／＼トナル程合メ丸ニモ散ニモスル也 サ腹

ニハ冷ゑヨノ痢ニハ皆飯ノ湯ヲ以テ用ユ　以上

積聚ニテシハブキ出ヲ治スル薬（ツヨクツマリタル人ニハ下ヲ用捨ユ）

一雄黄ハ半銭ホトヱニラノ苻根ヲ切割入テ艾中ヲ解毒一粒程ニ
丸メ其中ヱ雄黄ヲ按イレテ瓦器ヲ二ツ合テ其内ヱ炭火ヲ入テ
ヒタ合テ瓦器ノ後上ニ穴ヲアケテ筆筒ホトノヨシノ筒ヲサシ立
テ其煙ノ筒ヨリ出ヲ口内ヱ呑入テヌル湯ヲ一口ツヽ呑入ユ煙
ノ出ホトハ咒文モ呑也イカナルシワフキモ如此ニ度ハカリスレハ
治ユ大形ハ一度ニテ治ユ二度ノ日数四五日モ催ユ　以上

子ブトノ出生又雑熱瘡ノ薬

一苦辛十匁一生木香五匁一川キ二匁合抹メ〇モ程ニ丸メ食
ノ前後ニ弍一粒ツヽ一日ニ三度ツヽ用ユ呑汁ハ常ハ茶ニカサニ
ヨリテ山帰来ヲ用テヨシカサ上焦ニアラハカミ推テ可用ユ
下焦ニアラハ丸ノマヽヨシ七日ハカリモ可用ユ子フトイツルト
スグ付テ百粒一度ニ呑則ヒシケテ治ユ　以上

茎ノ薬（妙薬ナリト云）

一黄芩一大黄一柴胡一黄連一鮑骨一藿香
一マクリ一苦辛各三分一石膏一寒水石一ロガン石一括蔞根
一莪朮一縮砂一檳榔一五六郎子一薫陸香一木香一ノメ薬
一人参各二分一辰砂一塩硝一白礬一滑石一当帰一耳中
一葛根一升麻各一分一土竜ニ条　以上合抹ヱノミホトニ丸メ

十五粒ツヽ一日ニ三度ツヽ山飯末ヲ呑汁ニ〆可用散ナラハ一匁ニ
三銭ツヽ三七日モ用則必ナヲルヿ无疑日数三七日ヨリ上
モナヲル間ハ可用之（以此薬治則不再発之）禁食ハ雉鶏（ヤマドリ）
狸マス油気薑昆弱エゴイモ付述之以上（平左近直伝之）

赤タムシノ薬

一 田ムシノアタリ中ヲモ針カ亦ハヨシハヂキヲ以テ血ヲ出スツヽ
扨テ薬ニハ一薩摩ノ硫黄一五八霜同方一樽ノ木ノ油（或ハヤニモヨシ）一ウルシ（トキ汁ニス）
合テ二三度モ付之二三日或ハ七日可経間之（八代左近殿依伝急所ニ）（右伝之）

黒神散 硯川ヲ以酒消霜一薬是之（寛文庚戌同之宗参ニ伝之）（片讃ヨリ伝之）
腎ツキ 片岡讃岐ニ相伝 天正十臘月

一 硯川ヲ四月ノ初ミノミソ辰取テ霜ニスルヿ如常（分細ハ多細）
ニテヨシ又ハ麦飯ノ蒸テ置テ甑ヨリ漏タル汁ノコトリタルヲ以テ
可付ニツキ根ハ不及手付可思量之 以上

同小山ノ家伝ト云薬アリ

一 栝蔞根ヲ摺メサラスヿ如常一カワトノ根如常コシラエテ
摺ス一桂心ノ粉 右同分合メ能摺リ以テ付之 以上同人

痢病ノ薬 一碗大湯（右煎メ日清之出之差分之）

一 目中ヶ数一蟬脱皮霜合メ遠頂服ヽ服容ス衣ハ遠言之赤痢ニ
ハ鶯粟ノ煎汁サ服ニハ葛湯之 以上同人
唇ニ出ル腫物ニ付テ治薬（不痛コブノ如クナル又如種ニメ為末スル之）伝自ヨシ

一 鴿ノ糞ヲ油ヲ以テトイテ付之以上同人

痢病止薬（莉芦ヲチロタル獰西海子ノ刺ヲスキヲナクサレテヲケバ効）

一 莉芦ヲ焙テニメ日中（ヒルニ）少加テノサ服ニハ葛湯赤痢ニハ鶯粟湯ヨシ以上

疱（イモ）ハシカノ薬

一 蕪ヲ根ニテノ薬ニラノ汁ヲ以テ付之（俗当世ナトニハ薬ベラト云草之相州ニハ薬ニラト云之常ノニラニハアラス 安能）

蚿ニノワレタルト抔ノ物ヒカヱタル薬

一 我カ目ノ前ニアル物ヲ折カヱシテヲケハ吉之以上（小瘡ノ上ヲ覚之）

痢ノ薬

一 土用ノ内柿実ヲ割テ日ニホシテ粉ニメ茶一服ホトツヽ赤痢ニハ鶯粟ノ煎汁サ服ニハ冷タナメニハ飯ノ湯ヲ以テ与之ツヨキ病ニハ茶二服ホト与之以上安能

ヤケハタノ薬

一 阿仙薬一兎毛ノ霜一フスベ皮ノ霜一根紫ノ霜一飯影霜各同分ニ合メカミノ油ヲ以テ粘メ付之以上同人

同

一 桑ノ木霜一兎毛霜以上右ノトキ汁ニテ付之同人

瘧ノ薬

一 アワサイヲ葉ノ時ハ葉ミナクハ枝ヲ子一束ニ切テ煎テノ壱日ニ三服モ童ハ一服モ与之以上隣

一 タムシノ薬　土橋弥兵衛ニ相伝業之此ハ十五両ノメニモアリ
タムシヲカキモスリモセズ其ハ上ニ和大黄ヲ以竹刀剉テ如常酢ニス
リテ葛ヲ抹メ茶ニ三服ホト合ニテ亀子ノヌリ付ニテカハイタル時
竹刀ニテノコソケ前之薬ヲ又ぬるトニテ虫ヲカルトミヽ竹刀ハ鉄ヲ忌
以上

一 ヤミ目ノ薬
檳榔ヲ剉煎セカラヲ去ラス七〻〻煎ツメテ絹ヲ以テ漉メ黒色ニナ
ル程子リカタメテ貝ナト香合ナトニ入レ移仕置サス時ハ五灵
膏ノ如クノ物ヲ以テトイニテサスベシ一二度サシテ治之以上口伝
熱ノ瘡ノ薬

一 艾サヲ灸ノ如クコミライテ梅チノ比ニ丸メ雄黄ヲ抹メ衣
ニシテ香炉ニ火ヲ入テノ其上ニテフスベテ其煙ヲ以テ瘡ヲ
フスベル之先初ニハ当田テサシコワル之十山ヨリ内ノ童ニハ夜ね
ヲトメベシヲトナハ困ヲ井カニモ包蔵ベシ以上口伝
赤タムシノ薬
田ムシノアタリヲマシ中ヲモ針カヨシハチキヲ以テサクヽ血ヲ取テ
喉ケノ薬
一 梅干肉 一 白礬 一 焼礬（幼童ニハ枯枝ヲ代ニ用之） 一 南天竹ノ葉（葉ナクハ皮ヲ用之） 一 土童 以テ絹ニ包テ
スミ塩ヲ入テヒヤシノ含之童ノシラシクニモ上ノ如クノ含サヽニヨシ喉常ノ〻ハ
一カリロク 一 野ノ蒜ノ根 一 土竜ヲ日〻ニ合スル含薬ニ吉之 儀ヲノナリ名ニハ 一
膽礬 一 蛇脱皮 霜ニメ合メ吹入之 周的伝

同薬　ヨシノ竹管ニテ吹薬ニ用之　一種ツヽ用ミ之

一赤蜻ノ霜　一老女ノ髪霜　一屋上ノ慕ノ霜　一牛ノ角

一陳皮霜　一茄（牛膝二種柿干肉ニ合テ餅ニ包合之）ノ灰坐霜　一昆布霜　一土童　以上三種ニ糎ト酸ト

白湯ニテ錬テヌルベシ　以上　岩信於鹿嶋三世老人傳之

何モ唯ノ葉トモヤ

一刺ヌキ　三谷ホト抜ニノリ之釘ヲ打テ釘以ヲ打アケテ治テ足ル試之

一雌雞ノ尾ヲ生タル時切丸テ霜ニメソクイニ合テ鼻ニ付テトケロニ

ヲス之酔ホト酒ヲ呑テモ痛ヲスイ口後酒ヲ以テ早クスケル之　以上　岩信

ナミヅノ薬

一蛇脱皮ヲ一寸分五分ヲ天一盃入テ半分ヨリモ煎詰テ洗スル之

則治ト云ミ　脇川傳之

一胸虫ノ灸穴　其人ノ頭ノマワリノ寸ヲ取テ其本ヲクヒニ引マワシトマリヲ背ノ中骨ヲ挿テ其ヲ十一丁ツヽ灸之　以上

長血ノ薬　一蒲黄ヲ香色ニ炒テ茶一服ツヽナヲル迄白湯ニテ（不炒蒲黄ハ血塊ヲ下ス月分ヲ一月ノ内ニ皮ミタルニ白テナヲリタル支證アリ　高舟）

一花糟ヱ塩ヲ加テ霜ニメ茶一服ツヽ用也　以上

一枇杷ノ葉ヲ霜ニメ呑ミ

癩ノ血トメ

一杉炱ヲ酒ニ浸粘メ霜ニス　一車前中ヲ味噌ニスリ合石霜ニメ

一壁ノヲヽイヲ霜又ハソノマヽモ粉ニメ三種同分ニ合メ上批ア工

聊尓ニヒ子リカケヘカラス其血ノ流ル丶中ヨリ疵口ヱ次第々々

ニヒ子リヨセルヘシ

癰腫類一夜ノ内ニ肉ヲ出ス薬

一 黄檗ヲ生ニテイカニモ細抹メ只湯ニテ貼メ不乾メ癰ノ内ヱ

入テ口ヲハリ塞ヲケハ刻肉出ルヘシ　以上　桃源ニ相伝

一 白蟀灰一阿仙薬一粉霜三分一加テノヒ子リ入刻只ハ一返付テ

一夜ニナヲルヘシ　茎病ニモ吉ヘシ　前五十丁目ニ有之矣

鼡ノ薬

一 桐ノ木灰一粉霜合メ用ヘシ　桐ノ三分一加粉　以上　岩信ニ相伝

一 小便ツマヱテ病「淋々ニナルニハ（予愚薬ニ加ヘルモヨシ）車前子ヲ煎メ呑ヘシ　東平ノ筆ニ

一 下ハラノ鳴ニハ飯ノ湯ヱ何ヲモ不添湯ハカリ六七日モ用呑ハ一

代ナヲルヘシ　自鈞月栄業伝ヘシ

ウチメノ薬

一 イシミ河陰干一檜ノ耳皮干剉一胡芦剉　各同合ニ合

テ煎テ呑ヘシ　呑汁ハ上下戸トモニ酒ヘシ　以上

血トメ

一 厚キ上ミノ昆布ヲ灰ニメ舌上ニ耳カキ一ツホト置ヘシツヨキ

血ハ一時ホト不呑入舌上ニ置ヘシ　以上

血トメル呪ノヿ

サンサクノ峯キリ落ル滝ノ水々上セケハトマルトリキクト三返唱ヘシ

口傳云左右ニヨリテ其カタノ国ヲ掘ルニハナチ出ル人ノ国ニハアラス呪人ノ国ニ

刺ヌキノ妙薬　釘ヲウチテ抜薬ニトモ云ス

一蝎ノ陰干（壺ヲ貝メルヲカラフキハヨリ切テ肉ハカリ用ユ云中ノ内ハ不可用之）焼一クヌキノ皮ニ霜ニメ同分ニ合メソクイ膏薬ニシテ刺ニ付テトケ口ニ張ル初酒ヲ酔ホト呑ニ以上（三和云クヌキノ霜一種ヲ續飯ニ合刺口ニ付テ七重モ六重ニモハルニ或蜘蛛ニテモ伸ニ一日一夜ヲ經テヌケル以上）

同

一鯉ノ粉一赤蜻一鮭ノ皮抹メ田螺ノ白肉ヲ續飯ニ押合セ刺口ニウチテ其上ヲ續飯ニテ三日ハカリ張ル以上　周的傳

白舌　幼童ノ白舌者ノ一切口内ニモ呑ニ妙薬

一馬ノス子ノ骨ノクサリテ壁歳月上ヲコソケ落テ抹メ耳カキ一ツツヽモ二三度モクワヘルニ以上　共同

歯クサノ薬　歯ノキイタミ歯腫ナト口内臭ノ薬ニ

一柚サ子ノ霜白粉ヲ上ノ半分モ三分一ニ加テ楊枝ノサキニテサシ込也以上　日人

ソリノ薬　切疵又口モ血ナト虫ナトニテソルヿアリ

一芦毛馬ノ爪ヲ霜ニメ耳カキ一ツ二ツホトヌル湯ニテ与ル初ソリ止ニ以上　可秘

脚氣ノ薬　妙薬

一熊ノ胃ヲ霜ニメ一ヒキ鮭（カヘル）ヲ陰干ニメ一年膝ヲ如當釣アブツテ粉ニメ酒ヲ以テ立テ呑ニ以上

茎ノ薬

一紫竹ノ虫糞一丹皮ヵ一栗木ノ皮黒焼ニメ一阿仙薬右合

抹初茶ニシ宜

脚気ノ苦痛止 妙薬

一蕗ノ黒焼（去綿絡）一アメ牛ノ皮（各骨分）一土竈ヵ一狗杞ノ皮ノ

黒焼一ハコベノ黒焼 各同分ハコベラヵヒカヱルニ土竈ヵ又ル湯

ニテ一銭呑ニ 付薬ニハハコベノ汁ニテ解テ付シ

蓮瘡ノ薬

一狗糞黒焼一金箔ヵ一黄芩一黄連一大黄 四種全分

ハコベノ汁或ハ米ノ酸ニテ解テ付シ宜（リリノ薬ト同シ）

ヒクサノ薬 人験（去傷）

一髏（生粉ニメ）一蜂（赤白黒不嫌ニ） 各同分ニ合ノ蠡葉（スリテ）

鮮汁ニ石菖根葉トモニスリテ黙ヲ以テ解テ付ニ

赤ク走ルモアリ肌色ヨリモ白クハシルモアリ何モ同ニ（小黄左近云）

三十七味ノ醫書ニ云ノ丹毒トハ火クサノコナリ

耳ノアタリニ腫出ハ火クサト知レト宗参ノ義也

月閑ノ耳ノ傍ニ腫ノ肘ノ治ニ下ヨリ上ヱハレアカルハ

凶ニ上ヨリ下ヱ腫下ハ不凶ニ

丹毒ノ薬 同断

一河原兒ノ花陰干ニメ抹メクサノマワリヱ酸ヲ引テ

捫虱之以上

雜熱ハクサ瘡ノ付薬　同人

一串柿一串十ヲ実ヲ去テ柿ハカリ霜ニメサ子ヲ一モ（不失却其性サ子又掛チヲ二ツ入テ同分ニ霜ニメ黄蘗ヲ）霜ニメ柿霜ト桜ノ皮細末ヲ同分ニ合メ同抹メカミノ油ヲ以テ貼メ又其ヲ霜ニメ丸挙ヲハコベノ汁ヲ以テ粘メ瘡ヲ湯ヲ以テ洗ハナシテサテ付ベシ此薬ヲ付テ三日ノ間湯等不香浴ヘカラスセシソクナウスヲモ禁ニメシヲモ汁テハ不食可飛ヨリ汁ヲカケテ出ス飯ハ不嫌之一切酒モ等モ禁ノ見ルコヲ嫌ニ四日メニ浴スルニ痂ハナレテ治ニ薬験

此疵アラハ口ハモ痂ヲハナシテ薬ヲ捫カケヘシ以上

喉ノ薬　（絹ニ包テ含薬ニ吉ニ同ハ案上ニアルヲ用ニ河井傳書也）

一蝸ノ霜　脱殻（シタルヲ用ニ）ヨシノ葭ヲ以テ吹入ニ以上　同人

痢ノ薬

一白粉一耳卅一烏瓜ノ根（葛如クナルヲ）一葛粉ヲソクイノ如クニメ粘メ三種ヲ入テ豆顆ホトニ丸メ鶯粟ノ汁ヲ以テ与ニ赤痢ニハ鶯粟煎ヱサンノ葉ヲミツ入テ煎ニ以上

（此丸枚末ニラ以ヨリ魚鷩ノ薬アリ）一シワブキノ薬　喘息ニモヨシ　萬重ヲ始シ薬ニト

一（丸ナカラ用ニ）トクリヲ霜ニメ耳カキ三ホト湯又ハ酒茶汁心仁也知性熱之虚冷ノ人ニハ相宜ニ地性ノ人ニハ不吉

ナラニヤ否 楊梅ヲ諸之不宜メ汁ニメ食モ否之依之宜ハ接図ニ在之

切瘡ノ薬ハキレ瘡ノ名落手瘡ト云之

一 葶藶子ヲ磨テ付ル也

唐瘡薬（奥州伊達薬ト云ナリ 楊梅ニ於テ用之 佐野ヨリ取寄之ノ法之）

一 沈香宜一 田ニシノ灰一 山蜂房宜一 蛇脱宜一 文合（其マヽ）

以上各同分一錢 塩廿一 軽粉（梅薬ノ五分一ホト加之） 右合抹

丸メ一日ニ百粒ツヽ以茶ホ一ノ面之也

同灵天ヨク焼テ茶一服ホトツヽ以酒呑ニ妙之ト云之

丹毒（火瘡ノ丁ニ此ヨリ以下根田作ノ法之）

一 野（忌鉄）大黄ヲ竹ヘラニテコソケテ切テ磨ニ一粒立テ磨テ

同合メ一アヲミトリトミテ擂スリテ梅瘡ヲ以テ羽ニテ付

テ帋ヲ以毎フタニスヘシ 以上

同

一 桐葉（生ニテモ陰干モヨシ）一 蘗粉 一 五コリ芋ノ生（代ニハ天南星ヲモスヘシ）ヲ

スリテ合テ梅瘡ニテ付テ如右ニス

同 結シタル内薬ニハ三黄丸ノ薬数ヲ刻テ三黄湯或

内和湯ト銘メ之ヲ煎与孕者ニハ王連ヲ之分一ヒカヱベシ

外薬ナシ 以上男女トモニツマヱハ連ヲヒカヱベシ平身ニハ王

連ヲスコス之 以上

一 ヒクサ遍ヲニ出生メ付薬ツヽケラレヌ程ナルニハ肉薬ハカリ

ヲ以テ刷也　内薬ニハ　一木香　一芍薬　一當皈
一姜黄（莪朮ナリ唐ヨシ）各一朱　一修　一川芎（各二朱）一大黄　一京三稜
（各一分）一苓（一分一朱）以上女ノ血狂ニハ地黄（二朱）加也　男女トモニ
ツヨク熱セハ滑石（唐）（一虫ケニ於ヨシ）二朱加也　姜黄ハ肝ノ臓熱尤タル人ニハ不吉也　吐却（下ト云）

同丹毒ノ薬

一イシミ川霜　一牛額霜（各同分去悪血　血筋ヲサマス也）一滑石　二朱（薬性同上皮肉骨ヲサマス）
一阿仙薬（二三朱去悪血也）一鹿角灰（各合抹）一雪ノ下（キランサウ）一コナスヒ
（唐蓮中ト云）一スイカツラ　一鶏腸草　一欝金　一塩（少不添レハ）
右生ニテノスリテ酸ヲ以テ伸付也　初ノ抹薬ヲ入テ付ル也
腫ヲフクニスルコト如常トツト苦痛アレハカラ蒜ヲスリツケ
汁ニスル也　コ薬ハ同分也
又何腫物ナリトモクチナクテ痛ニハ天南星ヲ生テスリテ
石ノ薬抹ヲ合メテ付也　或ハ薯ノ生ト野老ノ生ヲ同分ニスリテ
合テ付　汁ニモスル也　但茎ノカサニハ薯ヲ煉也　野老ハ不
煉也　諸曰　丹毒ハ一二日ニテ經治了　五日モ七日モアル物也
其間右ノ内和湯ト和中湯ヲ兼カエ〳〵用也　熱気
浅深アリ内和湯ヲ以テクツロケテ和中湯ヲ以テ腸中
ノ虫ト血ト気力ノヨワキヲ治スル薬也　サテ虫気出ハ三
服ヲ二服ニメ濃ク煎ヲ用也　一七日ノ薬ヲ合メハカリニ
カケテ一両ハ過ル也　三分シ七包ニスベシ　此薬ハ丹毒ニハ

不限心氣集瘡目ノ邊ナトニ出ニ病ナヲルニ随テ薬ヲ
ヒカヱタルカ好之ソリナトノツヨク煩ニハ二匁ヲ七包ニスヘシ
以上

血ノ薬　或ハ血シハリトモ云之

一正月大ノ月トリタルメ鹿ノ頭皮ヲ付テニ其マヽイキノ不出様ニ
黒焼ニメ一女髪毛イキノ不出様ニ黒焼ニメ一莚カクレノ麻ノフル
ヲヱヲ陰干ニメ井キ不出様ニ黒焼ニメ各同分ニ合メ好酒ヲ
以テ一銭ツヽ用レハ大事ノ血モナヲル之以上（フツセ麻ノスヽメヲ立タテホトリ取ヲ云之）

右（りて近）根侍諸之

右血シバリ若傳ニモ同シメ鹿ノ頭フツセ麻女髪各黒焼トハカリニ云
右小書ハナシ手負産後ニ名薬ハ此薬ヲ人ハ如死トモ付為り

手負ニ白薬（其ヨリ以下血留薬之）

一カウホ子（是也）一小赤豆生 一アカサノミ 抹メ塩湯ヲ以テ
（白之）私曰カウホ子トハ六月ノ内水ノ底ヨリ出生シタル草ヲ
何草ナリトモカウホ子トモ云之　以上

疵薬（如髪黒トガセ名家傳唯授一人ノ薬之）

一カウホ子一両 一アツキノ粉二両 一昔代四両且ニ合メ大疵ニ
ハ先ヲ呑之下戸モ上戸モ吹ホトヽヲ呑之小疵ニハ疵口ヱ付之
以上

手負ノ内薬

一車前草 一西海子 此二種ヲ煎メ酸ヲ入テヽヲ呑之若此
薬ヽヲタモタズシテカヱサハ又童便ヽヲ呑之猶カヱサハ死ヘシ
以上

同 刺ノマセヘシ 血下之、

一芦毛馬糞ヲシボリテ其ハシルト車前草ノシルヲ同分ニ合メノマセベシ 刺血クダルベシ 是ニマシタル薬ナシト云々 以上

手負ノ胴ニ血ノタマリタルヲ愈薬ノ事

一芦毛馬ノ尿ヲ物ニウケテ同畢ヲ入テ尿ニシメテ百日陰干ニメ灰ニヤキテ服之 呑汁ハヌル湯ニテ可用之 以上

白血長血ノ秘薬 奇妙ノ薬也

一五輪ノ苺ヲ黒焼ニメ酒ヲ以テ呑之 或ハ東方ノ水ヲ以テ服之 以上

毒ヲ解スル薬 （楊梅皮和ニ有[illegible]有り）

一金柑陰干 一菊花陰干 一八重桜陰干 同合メ服之 呑汁ハ湯也 氏傳秘薬也 東西ニカクレナシ 以上

腫物 一夜ニチラシ失薬ニト秘事也

一茯苓一両 清酒ヲ天目一盃入テ濃ニ煎出メ塩ヲ一分入テ呑之 以上 是ハ正伝薬也

莪木煎 （莪木ハ忍者ニ不用 莪朮木香モ用ヘキカ不可用カト云々 何ニ忍 吉ニ不可用 ダメニ的氏認スルト云々）

一和木香ヲキサミ抹メ耳中ヲ吹加テ〇是ホトニ丸メ塩湯ニテ五粒三粒ツヽモ用之 虫一番ノ妙薬也 以上 （損是以下[illegible]ニ）

ハシリクサノ薬

一フシカ子ヲ以テ蕎麦ノ粉ヲトイテ塗ルサキヨリ鳥羽ヲ

以テ次第〱ニ内ノ方ヱ付ヨセル也 以上

サマシ薬　瘴風或癰病其外急熱ナル処ヲ汗ヲ発メ

一常山ヲ干メ抹メ茶二服（サマス薬也）ホト熱湯（アツキユ）ヲ以テ子リタテヽ呑テ衣類ヲアツクキテ汗ノ発ル者也　私曰常山ハ急ニ熱メ急ニサマス薬也サレハ熱気ヲ急ニ引出メ如ク急ニサマス也 以上

血トメ

一文櫻（ツヽジ）ノ花ヲ生ノ時ハチニテ磨リタニメテヽ漉メ物ニイサセテ干カタメ摺カクル也　私曰和其薬歇也白キ岩櫻右ノ如クコシラエテ女ノ長血ニ毎朝茶半服ホトツヽモ塩湯ニテ呑也 以上

血下

一牽牛子ヲ生ト炙炒ト同分ニ合メ薬研抹メ耳艸炙加テ酒ヲ以テ茶一服ホト与也酒不ニの者也 以上

クサカサノ薬

一伏竜肝一布櫛（クシ）ノ中ナル土一白蝉カラノ霜各同分ニ合メ芹ヲ按出メ其汁ニテ付シ 以上

鼠ノ薬　首瘡

一猪ノ油ヲ以テマコモノ霜ヲ付也猪油ハ堅物ナレハ火ヲ以テアフル也サレハシル出也其ヲ以テサスレハ毛生也マコモハ代令也 以上

消毒ヲ薬

一山桜ノ青肌ヲコソゲ取テ生ト炒ト半分合ニ〆抹〆茶
一服ホト冷湯ヲ以テ呑ヘシ　以上
毒ヲ呑テ例式ニ煩人ニハ舌肉不叶ナトスルヿアリ其人ニハ
一石菖根ヲ剉テ湯ニ出テヽの含ヘシ　以上

腫物ノヲシ薬ニハ
一天南星ヲ毒ニ呑タルヲ抹〆ハコヘノ汁ヲ以テ付ヘシ内薬
ニハ一トクダミ一西海子サヤ一楠チ一牛皮各等ニ〆
同分ニ合〆ユリノ根ヲソクイト合〆皆ノ薬ヲ貼〆ソク
イ膏薬ニスル也　以上　自御月後筆あし

一西海子ノミヲサヤノマヽ黒焼ニ〆濁酒ヲ以テ呑ヘシ　以上

童髪虱蚘亡失ノ薬
一桃葉ヲ揉テ髪ヲ洗テ其後朱ヲ香ニ焼テトメルニ翌
日虱ホロヽト落ヘシ　又ミツカ子ヲ髻（モトイ）キハニハサミテ置
ハヨシ　以上　宗近先生

蛭腹中ヱ入タルヲ消ルヿ　宗参ヨリ
一塩茶ヲ強テ多ク呑ハ消ヘシ　以上

閉ヱ蛇ノ入タルニハ
一枇杷ノサ子ヲ麻ガラ湯ニタテヽ呑ハ出ヘシ　以上円

茸ニ酔タルニハサマスノ薬

一茗荷（葉も茎モ根モ不嫌）腫ノ毒ニ又テハ香ニ）以上月

同

神仙をもいろくをせんして吉きよしてあへ
させくそ刈さめり子満とその言法と

除腫物の気毒ともにかくる

一抹香　一牛皮糸

酒によきさる菜

一葛の花を抹してうせんしてこれを粟一匁
あまりてくりて毎とこのめはよきさるかり

蒜（ヒル）をくりて不白菜

一（一切の勤まする）ちうの木の葉を抹して湯まてもあつそものむこと
おもくさうしみのむこと　家秘

腫物ノ薬　腫ノ頂上ニ付レハ痒シワキヱ付レハイタムト云ニ

一カチ栗ノ粉ヲ梅酢ニ粘メソクイヲ史入タルモヨシ　男侍サテ腫
物ヲ出タル所ニテ治スベシト思ハマワリヱ首ヲ史アケテ付テ
杁原ヲフタニスベシ押ノケシト思バ其方ヲアケテアト
ノ方ト左右ヱ此薬ヲツケベシ　甚ニ評侍妙薬也

一鉄炮疵モ常ノ疵ニ不可有違也　柳源八評之根田侍ら父
ナマツノ妙薬　白モ常ノモヨシ　評アリ

一山梔子剉　一黄蘗　一悪茶　各抹　一野大黄根　各同分

一 大黄ノ根ヲ生ニテ磨テ皆ヲ合抹メ白粉ヲミヽカキ三ホト加テ又ヲ加テシル〳〵トシテナマヅヲウス血ノ出ルホト剃刀ニテコソケテ其上ヱヌリ付ヘシ内風呂ニテ付クメルカヨシハヤクナヲシ度ハ白粉ヲ黄栢ノ三分一ホトヲ入ヘシ垢ヲヲトシテ付ヘシ黒ナマズナトハ一座付レハ結句又若ナルヘシ三四度モ付レハ必治ヘシ此薬ニテナヲラズト云コトナシ 以上 変語

虫クイ歯ノ妙薬

一 卯木ノアマハダコソケ陰テニモ日ナニモシテ抹メ古榧ヲ粉同分ニ合メ糊丸ニメ歯ノ穴ヱ入ルヘシ コニテ置テ歯ノ穴ソコロニ丸テ入ベシ又小粒ニ丸メイクツモ入タルモヨシ 以上 日

同

一 歯ノ穴ヱ天南星ヲ抹メ楊枝ニテサシ入レハ痛止ヘシ穴ナケレハ歯ト歯ノ間ヱ 以上 岩信

チリゲノ薬

一 蚱蜢（イナゴ）（螽也）ヲ霜ニメ茶半服モ乳ニ付テモ又食飲ニ入テ与ヘシ 以上 又ハ幼子ノ涎ヲタラスニモ右ノ薬ヨシ又ハ鳥マクリトテ蟷螂ノ木ニ巣テ梅干ノ如クナルヲ霜ニメ与ヘシ如右 以上 ゆゑ高ニ赤し

大熱気ヲサマス薬 （骨不〻焼同ク八馬ノ目ノアタリ三寸許向吉ヘシ 男女ニヨリテ馬ノ男女ヲウラカエテ与ヘシ）

一 鷹ノ骨ヲサメニテ抹メ耳カキ一程茶カ葛湯ヲ以テ与ヘシ呑汁多ク用テ吉ヘシ 以上 佐輝

一　虫ノ薬　（熱メ頭ウツテ虫ヲコルヲ治薬）

一梨実ヲ破ヲサ子ノアル所ヲ去テ粉霜ヲ入而テ押合テ
一ツモ二ツモイカ程モ各右ノ如クニメ霜ニメ梨一ツ分ニ土龍ノ
霜ヲミヽカキ一ツ程加テ沸湯ヲ以テ用ユコハリ虫ニハ湯ニ
苦辛ヲ少加テ用ユ疝気ニハ以茶用ユ　其ハ馬ノ熱メ
喈ルニハ人尿ヲ以テ茶半服ホト用ユ鶏の尾ニウメレ又
才ヲウチテ奶ニ人ノ薬指ノ血ヲ出シ薬耳カキ一ツ程
入テ飼ユ　以上　日人

一歯ノ薬　動テ歯茎痛ヲ治之　[illegible]

一あくざと霜にして　一白礬　一尾長虫霜ニメ各同分ニ

抹合楊枝ニてすりさしつこ　礬ハそむ薬こそま
ぬ様りと云も礬をおろし金し以上　[illegible]
さて云の薬

一天南星ハ足のうらに付之にあちし　以上　日人
疼（アカサニ）ノ痛所ヲ傳エ移カヱル薬思所ニ汁ヲ立疼上ニ付薬

一トカゲヲ陰干ニメ霜ニメ　一大豆ノ粉　押合ソクイニ粘メ
マハリヨリ付入ヨ汁ヲ立ヌル所ニウツ薬ノ大小ワ疼ノ形容
ホトニアケルヘシ　以上　修驛

又

一黒雞ノ頭ノ霜　一鮎（アユ）霜　一黒豆ノ粉　一大ソバノ粉

一アメ牛糞霜一ニレノ木ノ皮抹ソレニ粘メ目ハニキサ
ヨツキシホリ其汁ヲ以テ付ヨ　口傳　同人

天上保毒下

一油拔大　古茶　古味噌霜各小　軽粉少　以上各抹合一處ニ
茶ヲ煖ホト以古茶煎之　童眼煖足ニ子リ葛ノ如クナル
物下也其眼以粥止之如常　九歲　范紫人

得金瘡自即時以酒煎之　薬

一百草霜五匁　河骨（二匁日乾末）　六月小豆生粉一匁　以上
右三味燒塩一戔於掌上スリ合以清酒煎之足ハアイス
自河伯相傳之　酒多飲吉ニ　同人

撲指之薬　（來迎院ニ相傳）

一生鮒ヲ體ニスリぬりつけてそのあとよりへゆあくと
つけ置し

クヂキノ薬

一楊梅皮ヲ抹メ阿膠ニ合メ付之膠ノスルヘトメ兒度モ
折メヱ引ヘシ　（小野玄和ニ）

衂トメル薬

一竜骨ヲ抹メ鼻ノ下ニヲケハ入息ニテ自鼻孔ニ入テ衂トマル妙薬也
（天和傳）
一土竜霜ヲ血ノ流クタル上ヱヒ子リカケルニ妙有留ニ　（宗叶ニ相傳）

ヨコワノヲシ薬

一赤蜂灰ニ蛇骨ヲ五分一加テ梅醋ヲ以テワクイ膏薬ニメ付ル之　日人

女ノ乳ノトマリタルニハ

一小豆ヲニテ其汁ヲ毎朝七日早昼晩用ユ若此薬ニテ不治則ニラヲツキシボリ其汁ヲ生ニテ用ユ　以上　人猿ニ

破屍の灸薬（破損しゝりて可破るゝをもちうるをいやすと灸するゝ又あるさき破らるゝ八重方ニ灸うる）

一さ人の肉をぬきその骨みとりすりむきのうらの青汁彼めぬけのあるる骨とをかきとりニまれるくりとのきひまみ骨のとうりまあそしきもうと七火も土も灸をえし　細硯右とにお待

薬ヨ八　日人

一鹿茸（焼テ）一蛤貝ノ灰（焼灰ヲ作ルノ乾ホトナレハ吉ニヤキ過ルハワルシ）右同分カミノ油ニ粘テ痛所ヱ付之汁カワイテ治ユ　イヱ肉出テヨリイカノカウラヲ右ノ薬ヱ半分ホト加テ付ル之　以上キクニハ一返ニテ治スルニ

田ムシノ薬

一葛粉　一和大黄ハ生　一硫黄　同分ニ合テヨクスリテ水ニドイテ田虫ヲスリムカス其後ノ上ヱ傳之一宿メシレハ忠治ユ　同人

子ヲ持テ次男ナト出生ノ間遠延スルヲ速ニモタスヘキニハ

一兎ノ肝トカミハメントリノ肝両種ヲ汁ニ料理テこの日ニ用肝尽後窮雌ノ残ヲモ其人一人ニハカリ丸ニクワセヘシ　秘伝

出生子モ数々モトヨリノ不生妻ニハ如何ともなりかたし
子ニ無之望生（ウマ）ジト思フニ其ハ催アルニヨリ消 但ハ
一 サラシタルフノリ一年膝ノ根 両種土ケナキ様ニ洗テ
ウスク刻抹メ散薬ニメ月ノ下旬ヨリ七八日方ニ茶一服ホト一両
月用之 香汁ニハ右ノフノリヲ刻ミテ三宿メ翌日空腹ニ用之
吐却スル事モアルベシ不苦サテ月水ヲ見ヘキ之秘則キヽタリ
ト有ルベシ 以上 右両御家伝 月末ニ一朝用之

丹毒之妙薬 金森殿御家人伝
一 紫ナルスミレ花許陰干ニメ鶏腸艸ニスリ合テ粉末ヲ鳥ノ
カキニ三ホト加テ付也 以上

蛇咬ノ妙薬
一 スミレノ葉（駒引艸モ同之） 塩ヲ入テスリテ手ヲ以伸テ咬ハマワリエ付之
蛇油出テ効吉之 信太玄蕃殿ヨリ相伝
血下ヲ用テ不血下ニハ
一 芦馬糞ヲ手ニタテヽ漉メ残糟ヲアツキ湯ヲ益カネ手
ノコイニ一ニ包テ乱カヘヽ 煖之上ヨリ下腹ノ方エアタ
マメ当秘ニスヘシ 以上 右下効為死ト包得ベシヨハリタル自覚
ノ了之 以上 河井何某ニ於伝
痔ノ薬 右正以ヽ土ヽ於伝
一 ふとう（ふきの葉と） 葉モ根モ酒ニ三宿陰干ニメアブリ抹 三両

一大黄一両　一甘草一分　若腫気アルニハ加藿香一分以上
散薬ニメ耳カキ三ホトツヽ湯ヲ以テ用之目ノツブル、
ナトニ好ナリ常ハ中風ニモ用之　以上
血シバリ子ヲアラサント思フニ此薬ヲ用レハ母不妊娠也
一ブシ一両紙ニ包テ水ニヌラシ煨（ウイ）ス　一牛膝二両アフル　一紅花一両（二分）
一括蔞根同アフル　一當帰一両酒ニツケテアフル　以上煎薬ニメ用之
一三稜（剉テフツフツト酢ニツケテアフル）　一桂心忌火　一牡丹皮　一赤勺薬アフル
一エンコサク　一桃仁（去皮アフル）　一川芎忌火　各同分ニ合メ○
其ホトニ丸メ一度ニ廿粒程右ノ煎薬ヲ以テ呑也此薬
呑ツ时腰ヲ煖之　ヒトモジ川魚ヲ禁之　以上

ヨコ子ノ薬
一大山樝葉日干　一蓴ノ各同分酸ヲソクイニ合テ付之　以上
同
一ニレノ木ノ甘皮二分　一樽粉（大く）　一饂粉二分　以上（付汁同）
腋臭ノ薬　同薬野ノヒルヲモミテ腋ニハサミ永留よくスレハ[illegible]
一粉霜一両　一甘松一分　まるて付置し　以上
腫物ヲシ薬
一荒布霜　一アセホノ霜　一ナモミノ霜　一カヽイモノ霜　以上
小瘡薬
一雪下草　一キランサウ　一饂　各何モ粉ニメ同分ニ合以上
そこ[illegible]付へし

クサノ薬（又病ロノハレタルニハ百中代ヲミ行目分ニ合メ銘腸中ニテ付ニ何モノニ薬モ小野大和守ニ）

一大カナムグラ一トクダミ何ヲモ端五ニ剋テ霜ニメ同合メ
梅酸ニ焼飯ヲ二三顆入テハコヘニテ肌ノウスサニノベテ付テ
サテ餅ヲ上ニハリテ其上ヘハコベヲ不乳摸テリニ以上　三ヶ傳亮ニ治傳

ナマツノ薬

一先ウスカワヲタクル程浴テ其上ヲ茄子ノ切目ニアマサケヲ付テ
薩摩ノ硫黄ヲ付ヒタト磨ニスリ付晩ニ浴落ス也其内ハ斑ニ塗
朝又浴之其ハ時患ニ愈ル之サテ再不生之以上　渊傳

唐瘡又瑩ニ柄ナトノ臭気アリテ朽入ノ薬
一薬市多（キラヒサウノ事）　一金銀中（上ノ半分ホトト）各霜ニメ合メ白粉五分五ヨリ七分加テ

捫カケベシ幻リ治之　又安秘傳之

積聚下ノ法

一馬膘（一分）一丁子五粒一枯椒（同）一巴豆（同毒去テ）一朱（一朱）
一木賊（トクサ）粉（半服バカリ）　一粉霜ニ右　同　各合○右ホトニ丸容ノ粥ノ
上湯ニ以テ空腹ニ用之粥湯常ヨリアツクメ可飲服ヲ
不食ニスメニ好物ヲ食ス下ルニテ不留ハ冷水ヲ足ヲヒタス
ヘシ或亦冷タル粥ヲ食ヘベシ以上　清源ニ秘傳如薬下ル

肉瘡ノ薬　云言利右傳之

一砒礵石ヲ毒不取ニテ能抹メ一上野砥抹メ同分合メ
焼飯以テ山椒ノミホトニ丸メ二粒生豆ヲ磨イカニモコクノ水ニ

タテ、吞汁ニメ可与即吉也　針ニハカウクワウヲ灸スル所ヲ
双方ナカラニ針ス又クビヨクビツテ米カミノ血ノハリタル所
ニ針スルモ吉シ　同（合歓木ノ霜ヲ用タル吉シ以上吞汁任意ニ）（小渋ノ妙シ）

一鶏ノ霜赤痢ニ温湯或冷水ヲ以耳カキ一ニホト与シ　少一魚骨
戟喉ニ吞之骨即貶朽ト云々

キレクサノ茉　（外血留甚よし刃傷出所）

一キランソウ一干姜　一駒引中（何モ霜ニシ同分）　一アカ牛糞霜
各ノ一倍入シハコベノ汁ニ解テノモ亦ヒ子リ茉ニモスベシ

アナ草

一カタハミ一和大黄根一鮭ノ皮（貽霜）一麝香少一白粉少一沈香少

一焼塩少　付汁如意シ

廐草

一鮭ノ皮一ハコベ一牛糞一駒引中一ヂンカイ（何ニテノイシ）（各霜）一麝香少
一虎皮霜一焼塩少一白粉少　以上如印　一牛糞霜（トビヽニハ一種モヨシ）

手草ノ茉

一クサノ王一青黛一白粉　一莪朮　一ハコベ（何モ霜ニシ）ノ焼塩少以上

耳下（タレ）
（耳ニ悪血アリ又キコヘサルニ）

一巴豆実ノヨク入タルヲ去皮スリテ綿ニスリシメシカウヨリノ如クヨリ
テ耳ヘヒ子リイレ一夜經テ翌朝ニ耳ヨリシルタリテ吉シ耳ヲモ
即ヨリキコユルシ歯ノ痛ニモヨシ歯痛ム方ノ耳ヘ入シ茉トツタル

跡エカラシノ葉ヲ揉テ一雫入タル吉之カラシノ葉ナクハ黔ヲ

一雫入モ吉之　橘ノタメ之　以上　高雲斎於傳

鼻ノ内耳（アマ）肉（ミ）出生スルヲ治薬　湯淺之

一西海子六七寸ホトナルト一ニラ畠ノ蚓ノ大ナルヲ両様トモニ同器ニ入テ霜ニメ先鼻中ヲ木通ノツルヲ煎メ洗テカワイタル时ニ

右ノ薬ヲ一日ニ一度付之　以上

耳エ諸ノ虫入タルヲ治事　同人

一ニラノ根ヲツキシボリ其汁ヲ艾中ニシメテ日ニ干メ又シメテホシ〱五六返モシテサテ艾中ニ火ヲ付煙ヲ竹筒ニテ耳中エフスヘ入レハ百千虫皆死出之　以上

瘋ノ若テ狂スルニハ

一猿ノ牙ヲサメニテ抹メ一猿糞ヲ霜ニメ一鶏頭花ヲ抹メ同分ニ合メヨシノ筵ニテ鼻孔エ吹入之ヲトナヲハ人ニ捕エサセベシ子イル
あこん経百巻ニヲ讀之　月明

白舌ノ薬

一馬ノス子ノ骨ノ久キヲコソケ粉薬ニメ舌上ニ置之童ニモ壮人ニモ
舌ニ出ル物ニ含ニ吉之　尋洞

歯クサノ薬

一柚ノサ子ヲ霜ニメサ子十粒ナラハ軽粉ヲ毒トラスサ子三ノ分ホト
加テスリ合歯クサニ塗之妙薬之歯色悪ナリテ臭気アルニ吉　同人

コワリ虫ノ薬（クイツキ虫ノ事）

一石菖ノ根ヲ手一束ニ切テ煎出シ用之刻治スル之只ハヨコル虫ニモ
吉之　浄光院仙山伝授

大因ノ薬　山村杉盛伝授

一和大黄（大）一粒（ツブ）萆（生）一味噌（中　各同方）一梅干肉（少各）研テ
梅酸又米酸ニテ伸テ因エ塗付其上ニ袋エ入テシメ揚ル事
先習ニ言ヘハ如痒ハ枳刺松葉ナトヲ以テチクト刺ヘシ
落血汁出テ吉也一年ニ三度モ如此スヘシ一七日ニハ薬三度
ハカリツケカエヘシ是ハ不針券瘡也針ヲ以テ疵ヲトラハ
常ノ刄針ニテモ又筒針ニテモ因ノ疵ヲ巻キテ針口エ
黄金ノ屑（ケツリタルハヤドアリテアシヽヤスリヲ以テヲロシタル吉シ）ヲ茄子ニ三四粒ホトサシ入テ置之刻肉ニナリテ
疵モ因エサカラテ吉之金屑ハ指ニテモ赤銅ヲヨリタルサキ
ニテモサスヘシ　以上

クバリ草ノ薬

一巴豆一粒一天南星（小粒ノ葉ハ悪シ香色ヨリ大粒ヨシ）一猫頭葉　一西海子ノ
実葉ニメ一和ノ地黄（生）各同方巴豆ホト続飯ニ粘シ
根抜ニ丸メ痛所ニ針ヲ立テ其ハ瘢エ指入膏薬五日歴テ
ハナス也　内薬ニハ土竜葉ヲ耳カキ一ホトツヽ以葛
水ニ用之　以上
クヽリ草クヽリ癰ノテラシ薬ニハ

一ヒヨ名上戸宜一龍生粉同合メ続飯ニヲシ合テ腫テ悪血
ノアル所ヱ張付也　以上
一ウミ下ノ薬（クヽリ出又不腫不膿煩ヿ遍身底ウミテ上ヱハ不現物ノ類ヨコハヨコ子迄ニヨシ以此薬下スルニ）
一川大黄一王連一黄芩日分一桂心一阿仙薬一陳皮各（[illegible]）
一巴豆（三四粒但薬ノ上下戸ニ依ニ常者ニハヒカヘベシ）一甘艸三分一各合抹透頂ホトニ丸テ
五十粒百粒又廿丈粒モ依人与之
仙人丸　フキ唐瘡ナトノ出初ニ用ル右治ノ薬之
一黄芩一王連一大黄各一匁一牽牛子（ソツト炒）（同）一ハコベ霜
一西海子ノサヤ去実霜ニメ各三匁一白朮二匁一夕薬一和人参
各一匁一甘艸二分一白粉（茶一服ホト青毒）如常以上薬上戸ニハ（和粉）
ヲ増薬上戸ニハ白粉可減椒ニヌホトニ丸メ五十粒ツヽ朝昼暮
ニ以茶与之七日モ十日モ与之以上
ヨシラ瞼（ホウ）ノ薬　腫物ノヨシ薬ニモ吉之
一石灰（不青毒其侭）一西海子（ニ又モサヤモ霜ニメ）一蜂ノ灰各同分一土竜霜（ニホト上）
以上虵イチコノ根菫薬共ニ研漉メ其ハシルニテ粘メ以鳥羽ニ
付之
抱（ダキ）薬　集瘡其外ナヲリカ子ル瘡一二年ニテモ七日ノ内ニ減違之
一沈香一王連一黄芩一豕（ミツカ子）各一匁一薫陸一雄黄各一匁
各抹メ艾廿ヲ灸ノ如ク捻テ成凹其内ヱ此薬ヲ包入瓦器
ノ上ニ伏フスベル之不出煙其夜不起極ニスヘシ起居又懐

ヱ凡ソ煙出レハ薬キカヌ之鼻孔尻穴ホヱ不煙入様如常也
童ナトニハ熏陸一種ハカリモ髪瘡ニハフスヘル之又右ノ薬ニ汞ヲ服メ
モ用之餘ニツヨキ謂之
カミカサノ付薬ニハ　（石灰サラサラ呑薬ニ男女ニ嫌ト加塩煉之）
一石灰ヲニラノ根ト研合テ鍋ニテ陰干ニメ万病灸ノ如ク抹
メ用ノ時日仕之カミカサニハ油ヲ先ツケ其上ヱヒ子リカケル之　以上
シワフキノ薬ニ
一雄黄ヲ帋ニ伸テ巻メフスヘルヿ如前先サラ煙ヲ呑コシテ
ノ上ニ粟ノ粥ニテモ飯ニテモ一口ツヽ呑入ト也甚面白口傳之
内瘡ノ内薬ニハ
毒ヲ消ス薬之青鶏黒焼青鷺ヲモ黒焼土竜黒焼等一種ツヽモ以
白湯飲ト云し
灸ノ不直平ハ性ノサニナル之
一鮒ヲ肉ハカリ黒焼ニメ振カケル之先ハ灸斗リニ日飲
手足続目ナトニ出生ス大ナル瘡ニハ
一莉芦ノ根ヲ生ニテスリ瘡ヲコソケヌリ付テホシテ二夜斗付テ
ラ性ニ和ノ烏頭ヲ抹メヒ子リカケル之外ニモ何ニモ吉之以上烏肉
粉振ニモ又薬大黄ヲ揉テ其汁ニトイテモ付之薬ノカサニ苐一之
喘息ノ秘灸
一脊ノイチ骨ヨリ筭テ十メノ骨ノワキ左ノ方ヱ一寸ノケテ灸

一灸之赤胸（下鳩尾ニ）ノヒヨメキト云ホヲ十一モ灸之サテ薬ニハ
一柚子ノ皮ヲムイテ一袋ツヽニ分テ發ノ不出様ニサ子ヲ去テ
天南星ノ実ヲ五顆ホトツヽ一袋エ入テ味噌ヲ豆腐ナト并
如様ニ包テ右ノ柚子エ瓦器ニテモアブリテ七日モ二七日モ
一返ニ三袋ホトツヽクワセベシ必治之　天ーー実ハ赤クナルニ
荊芥ノ実ノ如シ口ハ食ハメモ不苦毒之九十月アルニ茎根ニ
落テ土ニ雑テ在ヿモアリ以上

テンニ病ノ灸

一鳩尾ヨリ二寸ホト上ニ高キ骨ヲ一ノ骨ト云其骨上ヲ艾一ヲロリクメル
トキ灸之

痢ニ病之薬

一天南星ヲ七日サラシテ抹メ一土竜霜同合糊ニテ〇ノ大ホト
ニ丸メ十粒十二粒ハカリ赤痢ニハ葛湯ノサ服ニハ只水ヲ以テ
与也　孕者ノ呑薬ニ天南星禁ト文指引許之

耳ノナル薬　以血蝉ノ如ク鳴ニ

一菖蒲ノ根ヲ少アタヽメテサキエカミノ油ヲツケテ耳穴エサシ
入也耳内ヲアタヽムレハ鳴止ト之五日斗ニ一度ツヽ常ニアタヽ
ムベシ　以上　并追山村傳之

痢之薬

一鶯糞ノ上下障子去ヿ如常抹メ香色ニ炒テ耳中少加テ茶

一服ホトヲ一服ツヽニ包分テ与之一返ニハトマラヌナリ次ノ月ニトマル也不妙則不愈之妙ハ口傳以上　幸庵丹波傳之

毒消薬　魚茸ノ酒ニ酔タルモ知醒之

一青鵐卵一青鷺卵一蛭（ヒルモ）麻子葉根共ニ粉ニメ同分ニ合メ桜木ノ甘皮ヲせんしお露ニウツテ打ろめしして以湯耳カキ一ホト与之　是者道ヨリ源家和泉守傳又幸庵ニ相傳

瘴風ヲサマシ薬　一切熱気ヲサマス之

一桑ノ東方エサシ出タル枝ノ葉ヲ八月十五夜ニ月顕サシタル時トリテ陰干ニメキザミ煎メ服数ヲ与之　以上一種之

疝気之薬　中風ヲコリタル時

一梔子ヲ二三粒抹メ以好酒酔ホトニ可与之

膝ツクラ

一田ニシヲ生ニテスリヒシキニ可付之

一チリケ其外一切次目瘡ノ薬　先口他ヲ洗テ付此薬

一カタメ貝ヲ一灰ニ焼テ亦飯湯ニ貼メ再焼メ可用之（小ニメ貝肌ハルシ非在沈在石県）

紫胡湯　大熱気ヲサマス之　初版之傳ニ可見之

一柴胡二文目一川芎一黄芩一椒麻各一分一王連一朱

一石膏二朱一甘草少以上一包ニメ此薬モ煎用之而ヲ飯椀四一盃初薬一返ニ入テ七分ニ煎詰テ二ニ分テ与之

如此薬モ煎之夜中ヨリ与レハ翌日ノ四程サメル之汗ト

痢ト勢ハ気下之其ハ朝之

積聚ノ薬ニハ

一コヌカニマシタル薬ハナシヌカミソナトノヿ之モ死ハ積聚之
テ死去タル人ヲ葬スルニヲ工物トテ暫ハ不焼火其时之
コヌカヲカケテ焼ハ即消失スト之

ヤケトノ薬　（[illegible]）

一藍壷又藍桶ニウキタル泡ヲツケルカヨシ又藍染ノ皮ヲ
煮ゝメ捌色又ハコヘノ汁ニテ付吉之　灸ノ不去ニモ付ク

同

一馬（毛不生之）ノ油トテノ皮ト肉トノ間ニ白キ是油之カ子テノ[illegible]

苦痛止之

げちゝの髪をくいきりたる跡ヨ毛ヲ生ル薬

一土竜黒焼ヲハコベノ汁赤カミノ油ニ粘メ付之　[illegible]
同トリモチヲ付テ跡ヲフタニスヘシ膿出之ワレトハナル迄ヲツ[illegible]　[illegible]

毛ヲトメル薬　（毛ヲイヤト思イテトメル之）

一鑷ナリトモ何ナリトモヌイテ其アト工蝙ノ血ヲ傳之一返ニ
テモ二返ニテモ毛不生之　[illegible]

血下

一巴豆（去皮 二匁）一大黄ハ末　一虎膽（其侭）　一鹿肉（酒ニ浸メ日ニ干ス 各二朱ツヽ）　一黄ハ芩ノ末（三朱）
以上各抹合○老ホトニ丸メ衣ニハ大黄ハコニメスルニ五十粒ツヽヌル

湯ニ以テハニサエスメ用之

同

一主連君二一黄芩臣二一大黄臣二一巴豆以上三種合メ茶一服宛

アラハ巴豆ハ七粒ホトヲ入之

同　八粒丸　宗参ノ法之芝和許遣

一巴豆一粒ニ飯顆八粒合メ号八粒丸飯顆六粒合テハ日六粒丸香汁ハ湯ニ歴程ヲ以用ニハ先ッ血ヲ動茱ヲ四五日モ用ヒサレ右ノ茱ヲ与之血動ニハ四物湯吉ニ四物湯本方許ニ忘加茱合メル吉之食物ニモ血ヲウコカス物ヨシ以上

（蚘之）政虫ノ薬ニハ八粒丸ヲ用与メ不洒ハ五粒丸ニテ下之五粒丸テモ不下ハ必死ス飯二多用テ不下則三多モテ与之也多モ与ベシト見也香汁ニタレミツヲヌルクワカシテ天目一盃ニハセ小豆ノ粉ヲ茶二服ホト入テ用ル如此ヲ下之渭之頭下之

一五八薬ヲ用テ毛穴ヨリ虵首出フアリ其ハニハ麹子ヲ湘ゑ忽湯ヲヌルクトメ沐浴スレハ即吉之以上　岩走法之（又次ニ云茱ヲ起メ用之又茱ヲ煎ニメ以湯与之ト云し）

五八薬ノ焼様　青柳神明ノ傳之

一クチハミ如常竹筒エ酒ヲ入テ虵砕ヌ生ノ敗ヲ利揚様附五穀ヲ一ツマミツヽ入テ黒ニスル之又以酒貼メ焼事五多程ヲモ首ヲモ不捨去香汁ニハ酒之以上

同　岩佐ノ傳ニハ　虵ニ茱ノ薬ヲ四十本入テ焼五八四十ノ渭之

一初度如右焼ステ首ト尾トヲ去テ又酒ヲ以テ貼メ焼之二度ハカ
リモ焼又一度モ許香用之以上　安子備後流ニハ酒ヨリ虵ヲ取出タ
ル時虵ノ歯ヲ小刀ノミ子ヲ以テ拂落テ一返焼テ用之ト云く以上
五八廿トハ五木ト八廿ヲ虵ニ添テ焼故ニ曰五八艸ト虵一種ヲ
云之ト　金田伊与流之虵一疋宛ノ分一匁目アリ
五木ハ一子ムノ木
若枝葉共ニ一柿ノ木一梨ノ木一栗ノ木一マユミノ木（各同前若枝葉ヲ用之）
八艸ハ一薬師廿一菊花葉枝一卯木一款冬（フキ）ノ葉一蓮
一石ミ川一庭蓮艸（代ニハ虵床子ヲ用ル之）一一本（イツホ）艸（シバリ）
去ル日干陰干ニメ各合メ焼之三年ミソヲ古酒ヲ以テ
ウス〱ト解テケスベシケシテ焙鍋ニテ炒之味噌香消
失スヘキタメニ之或ハ以酒貼メヌリ物ニ入テ置之虵ヲハ別々ニ
焼テ香取右ノ宛ヱ三方一加テ用ト云く右ノ分量ニハ虵一本
焼之焼様竹筒ヱ古酒ヲ入テ虵ヲ入（一夜宍之）七日ヱ乙テ尾首ヲ切テ
焼也ト云く　香汁ニハ酒又塩湯吉之赤痢ニハ飯湯吉之
一百廿ヲ宛ニ鬼神気ハコヘ天竜星ヲ不加此三種ハ一種
タチニ用薬之加薬ニハ信物用之ハコヘ鬼神気ハ痛ヲ
上段ヨリ下段ヱ下レトスル是之　同人
鼠ノ薬（ハレモノ之）（并強傷之）
一鹿毛或猫毛（霜）一カミノ虫（四モ五モ）一耳廿一砥アカ各合ソ
クイ青薬ニメ鼠ノ頂上ヲアケテヨシルカミノ虫女ニハ男々ニハ

女ソヲ用ユ

痔　荒家ニ相傳ス

一蓮肉ノ如クニ出生シタルヲ山蜘ノ絲トマユミノ皮ヲ細クシテ合テ巻切ユ蛛絲ハカリテハ痛ユ内薬ニハ冷薬ヲ用ユ

冬ノ用ニハ蛛絲ヲ物ニ巻テノヲケハヨカルユ蛛ヲモ蜀下云々　以上

鼠ノ吹切ル薬（腫ユ諸腫共ニ口ニ含メ吹キラセ夜ニ付ヘシ）

一コメ子ノ節ニツイタルヲ三粒ハカリ呑ハ妙ノ吹切ユ　以上

ミハブキノ葉ヽタシ胸ニセリヲ治ユ（孕者ニ天南星嫌フヘト云々）

一天南星一丁子各一夊一硫礦ハ二夊　ヒヒ々抹合メ以續飯〇

ソホトニ丸メ廿粒日ニ三度ツヽマルナカラ以湯呑ユ以上　今傳リ

ムシクイ歯ノ灸所　歯イタムトキ可灸之

一イタム歯ノ方ノ手ノ肉ノ筋ヨリ指サキノ本ヲ五ナカラワラヲ以テ結テ其ワラヲ二ツニヨリテタケタカ指ニカケテ両ノ端ヲ引ソロヱテ腕ノコウヲワラノ留リヲ三火可灸之　以上

喉ニ魚骨戟シ其外刺迷物ノ戟タル呪ノ一

一俗ハ刀僧ハ扇子等何ナリトモ腰ニサシテ手ヲカケテ唱云

ニ云　東ナル鵜ノスム淵ノ瀬ノ淵デ魚ノカイシハ本ノ㐧ナリト

蜜唱メ刀扇ヲヒシヌイテサテ抜タト云ヘハ即ヌケル也總

枚里ヲ隔テモ吉ユ　以上　何某相傳ナリ相傳

一咳逆出テ不止　何病サシ添タリトモ用テ妙ユ小麦ノ藁（ハラ）ノ不

柹ヲヒヽテメ節ヲ去テ粉ニメ酢ニテ用ヨ　江喜

痔之付薬

一熊胆（二分）　一竜脳（二朱）　右少ハカリ水ニテ付ヨ　江喜

痔痛痒難忍

一枳壳荊く煎湯ニテ痔ヲ洗テ付薬ヲ付ヨ付薬ハ白凡（二分）一竜脳（二朱）ヨク研テ湯ノ気ヲ取テ此薬ヲ付ヨ煎湯ハ側栢葉ヲ加減メ吉ニ（月人側栢ハカヤノ葉又竹田ニ檜葉サワニ何モ同セ）

痔ノ薬先發スル物ニ持薬ニ三黄丸百粒二百粒宛好茶ニテこの用之薬種ハ柴胡黄ハ芩ノ只壳大黄ハ芎䓖外广ナトも然ニ血多者ハ地楡槐花ノ加ニ四物湯ニ枳壳荊芥槐花ナト加減メ用ヨ痛ハ秦艽生地黄ハ加ヨ烏梅少ニ入吉ニ生姜一片入煎ノ用ヨ又酒痔トテ有リ上戸ナラハ葛根只壳半夏伏令地黄ハ杏仁ソ黄ハ芩ノ甘艸　右黒豆七粒入煎ノ服ヨ

血トメ咒ノ事手負ノ疵トコロヲ咒人我カ手ヲヲサヱテ此
歌ヲ三返蜜唱ス其人ニテモ使ノ人ナリトモ疑則トマラヌ也
チリ〱トチリメリ神モ血ノ神モ此声ヲキイテシカトトマレ（以上卅文字哥）
同　陽河則トマリカ子ル之タノマレテ咒ハトマル也